

October 2023
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

NOVEMBER

2023年10月定期公演 指揮者変更のお知らせ

Cプログラム(20日[金]、21日[土] | NHKホール)

Bプログラム(25日[水]、26日[木] | サントリーホール)

2023年10月定期公演CプログラムおよびBプログラムで指揮を務める予定だったヘルベルト・ブロムシュテットは、体調不良のため医師のアドバイスに従い、来日を見合わせざるを得なくなりました。

つきましてはCプログラムは高関健、Bプログラムは尾高忠明に指揮者をそれぞれ変更して開催いたします。

なお曲目、ソリスト(Bプログラムのみ)に変更はございません。

※同じくブロムシュテットが指揮を予定していたAプログラム(10/14[土]、15[日] | NHKホール)は中止となりました。

ヘルベルト・ブロムシュテットからのメッセージ

NHK交響楽団10月公演の聴衆のみなさまへ

NHK交響楽団のすばらしい音楽家たちと演奏する3種類のプログラムを、私はどれほど楽しみにしていたことでしょう。そして今、医師のアドバイスで日本に行くことができず、どんなに悲しい思いをしていることか。

しかし、すでに次の日程が2024年10月に決まっており、私はそれをとっても楽しみにしています。その時には神のご加護のもと、私がとても大切に思い、愛してやまない日本のみなさまのために、再びともに音楽を奏でることができるはずです。

尊敬するオーケストラの仲間とともに、心からの敬意をこめて。

ヘルベルト・ブロムシュテット

指揮:高関 健 (Cプログラム)



国内の主要オーケストラで要職を歴任し、現在東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者、仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、富士山静岡交響楽団首席指揮者を務める。海外への客演も多く、2017年にはサンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会に登場。オペラでの活躍も目覚ましく、2019年にロシアで團伊玖磨《夕鶴》を、2021年には新国立劇場でストラヴィンスキー《夜鳴きうぐいす》などを手掛けた。1977年カラヤン指揮者コンクールジャパン優勝、第50回サントリー音楽賞などを受賞。N響とも定期的に共演を重ね、1993年には韓国公演の指揮を担った。

指揮:尾高忠明 (Bプログラム)



©Martin Richardson

桐朋学園大学で齋藤秀雄に師事し、ウィーン国立音楽大学でハンス・スワロフスキーに学ぶ。1974年に東京フィルハーモニー交響楽団の常任指揮者に就任(現桂冠指揮者)。その後、読売日本交響楽団常任指揮者(現名誉客演指揮者)、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団首席指揮者(現桂冠指揮者)、新国立劇場オペラ芸術監督などを歴任。2018年から大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督を務めている。後進の育成にも熱心に取り組み、2021年には東京国際音楽コンクール(指揮)の審査委員長に就任。N響とは、1971年の放送用の公開収録でデビューして以来共演を重ね、2010年に正指揮者に就任した。

October 2023 Subscription Concerts

Program C (Friday, October 20 & Saturday, October 21 | at NHK Hall)

Program B (Wednesday, October 25 & Thursday, October 26 | at Suntory Hall)

Change of Conductor

Herbert Blomstedt, Honorary Conductor Laureate of the NHK Symphony Orchestra, who was scheduled to conduct Programs C and B of October 2023 subscription concerts, has had to comply with his doctor's advice to cancel his trip to Japan due to health reasons.

With this decision, of these concerts, Program C and Program B will be held under the baton of Ken Takaseki and Tadaaki Otaka respectively. The programs and soloist (Program B only) will remain the same.

*Program A Concerts (Saturday, October 14 & Sunday, October 15, at NHK Hall), which Herbert Blomstedt had been scheduled to conduct, were cancelled.



Message from Herbert Blomstedt To the Audience of my NHK Concerts in October:

How much I was looking forward to the concerts with three different programmes together with 'my' wonderful musicians of the NHK Symphony Orchestra and how sad I am now that I have not been able to travel to Japan on the advice of my doctors, due to an infection.

However, we already have new dates in October 2024, which I am greatly looking forward to. God willing, we will then be able to make music together again for you, the Japanese audience, whom I value and love so much.

My highly esteemed colleagues in the orchestra and I send you our warmest regards.

Yours sincerely,
Herbert Blomstedt

Ken Takaseki, conductor (Program C)



Ken Takaseki has served in important positions of major orchestras in Japan, and currently he is Principal Conductor of the Tokyo City Philharmonic Orchestra, Chief Conductor of the Sendai Philharmonic Orchestra and the Mt. Fuji Shizuoka Symphony Orchestra. He has often guest-conducted orchestras overseas as well, and in 2017 he appeared with the St. Petersburg Philharmonic Orchestra to conduct its subscription concert. He also actively works in operatic performances, including Ikuma

Dan's Yuzuru (Evening Crane) in Russia in 2019, and Stravinsky's Le Rossignol at the New National Theatre, Tokyo. In 1977, he won the Karajan Conductor Competition Japan and the 50th Suntory Music Award in 2021. He works with the NHK Symphony Orchestra on a regular basis, and led the orchestra's tour in South Korea in 1993.

Tadaaki Otaka, conductor (ProgramB)



©Martin Richardson

Tadaaki Otaka studied conducting under the tutelage of Hideo Saito at the Toho Gakuen School of Music, and with Hans Swarowsky at University of Music and Performing Arts Vienna. He was appointed as Permanent Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra (now Conductor Laureate), he then continuously served in such positions as Permanent Conductor (now Honorary Guest Conductor) of Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Principal Conductor of the BBC National Orchestra of Wales

(now Conductor Laureate), and Artistic Director of the New National Theatre. He has been Music Director of the Osaka Philharmonic Orchestra since 2018. He has also been keen on training the next generation of artists, and he assumed the position of the chairperson of the Panel of Judges of the Tokyo International Music Competition for Conducting in 2021. His first collaboration with the NHK Symphony Orchestra was in 1971 when he conducted the orchestra in a public recording for broadcast, and since then, he has repeatedly returned to the orchestra's podium, and became the orchestra's Permanent Conductor in 2010.

終演時のカーテンコールを撮影していただけます



コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。

SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。

ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

「フラッシュ」オフ設定

確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

スマートフォンのフラッシュをオフにする方法

多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す[⚡](カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。

これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。



インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

こちらのQRからアンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

詳しくは41ページをご覧ください



お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用にご協力をお願いいたします

PHILHARMONY

CONTENTS

OCTOBER 2023

10

- 3 [ニュース] **ファビオルイージ 首席指揮者の任期を2028年8月まで延長**
- 5 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 10 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 15 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 20 [シリーズ] **N響百年史 | 第40回 | 日比谷公会堂へ!** 片山杜秀
- 24 2023年11月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 26 チケットのご案内
- 27 2023–24定期公演プログラム
- 30 特別公演／各地の公演
- 35 NHK交響楽団メンバー
- 36 特別支援・特別協力・賛助会員
- 40 曲目解説執筆者／Information
- 41 みなさまの声をお聞かせください!
- 42 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 43 Program A
- 46 Program B
- 49 Program C
- 51 The Subscription Concerts Program 2023–24
- 54 N響関連のお知らせ
- 55 役員等・団友

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

NHK交響楽団は、2022年9月に3年間の任期で首席指揮者に就任したファビオ・ルイーゼとの契約をこのたび3年延長し、2028年8月までといたしました。

就任後初めての2022-23シーズンは、9月の就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を指揮。その後ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、R. シュトラウスなどドイツ・オーストリアの作品や、フランクやサン・サーンスといったフランス語圏の作品に取り組み、その歌心と情熱に溢れた指揮ぶりは、多くの聴衆の心を掴みました。

今後は2023年12月の第2000回定期公

演で、マーラー《交響曲第8番「一千人の交響曲」》を演奏。また2025年5月には、アムステルダムでのマーラー音楽祭に招待され、続いてヨーロッパ各地での公演を予定しています。こうした活動は、N響の国内外における評価をますます高めるものと確信しております。2026年に創立100年を迎えるN響は、数々の記念公演において、ルイーゼと共に魅力的なプログラムをお届けすることとなります。テレビ、ラジオを通して、数多くの音楽ファンのみなさまにファビオ・ルイーゼとN響の演奏をお楽しみいただければ幸いです。

ファビオ・ルイーゼ 首席指揮者の任期を 2028年8月まで延長



NHK交響楽団の聴衆であり、友人である皆様

私たちは幅広いジャンルのクラシック音楽を、興味深いソリストや指揮者の顔ぶれとともにお届けしています。

家族向けのコンサートや、定期公演の前に小さな室内楽のコンサートを開くなど、その活動は極めて多岐にわたります。私はそのうちの多くのコンサートを指揮しますが、このことを大変誇りに思い、幸せなことと感じています。

また、2025年には非常に大切なツアーを計画しています。とりわけアムステルダムで開催されるマラー音楽祭への招待は、我々が世界でも数少ない、選ばれたオーケストラのひとつであること^{わか}しであり、大変うれしく思います。何しろ招待されなければ、参加できない、マラーに関する最も重要なフェスティバルですから。

私が指揮するN響は、アムステルダムでのコンサートに招かれたのち、それに続けて、大変重要なヨーロッパ各地へのツアーを行う予定です。

このように私たちの活動はとてすばらしく、パワフルなものです。N響は国際的にも非常に注目されており、世界の主要な交響楽団のひとつとして認められています。

ファンの皆様、どうぞこれからも続けて私たちのコンサートに足をお運びください。

なぜなら、私たちは皆様を愛し、皆様のために演奏するのですから。

Message from Fabio Luisi

ルイーダからのメッセージ

ファビオ・ルイーダ | Fabio Luisi

1959年、イタリア・ジェノヴァ生まれ。ダラス交響楽団音楽監督、デンマーク国立交響楽団(DNSO)首席指揮者を務める。これまでに、チューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督などを歴任。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。



こちらのQRから、ルイーダからの動画メッセージもご覧いただけます

PROGRAM

A

第1992回

NHKホール

10/14 土 6:00pm

10/15 日 2:00pm

指揮 ヘルベルト・ブロムシュテット

コンサートマスター 郷古 廉

ブルックナー

交響曲 第5番 変ロ長調[75']

- I 序奏: アダージョーアレグロ
 II アダージョ: 非常にゆっくりと
 III スケルツォ: モルト・ヴィヴァーチェ(急速に)
 —トリオ: 同じテンポで
 IV 終曲: アダージョーアレグロ・モデラート

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。
 ※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profile

ヘルベルト・ブロムシュテット (指揮)



1927年にアメリカで生まれたスウェーデン人指揮者。ストックホルム王立音楽院などで学ぶ。

1954年にストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団を指揮してデビュー。ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、サンフランシスコ交響楽団、北ドイツ放送交響楽団(現NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団)、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の首席指揮者や音楽監督を歴任し、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やウィーン・フィルハーモニー管弦楽団など、各地の一流オーケストラに客演している。

NHK交響楽団とは1981年に初共演し、1986年に名誉指揮者に就任。2013年からはコロナ禍で来日できなかった2020-21シーズンを除き毎シーズンN響の指揮台に立ち、2016年には桂冠名誉指揮者の称号を贈られた。昨年もマーラーの《交響曲第9番》などを指揮して、大好評を博した。楽譜に向きあう姿勢は真摯そのもの、しかし音楽は力むことなく洒脱にして爽快、そして清冽だ。

今年は、1973年にドレスデン国立歌劇場管弦楽団の指揮者として初めて来日して以来、50周年の記念の年となる。ブルックナーとブラームス、母国と同じ北欧フィンランドのシベリウスにデンマークのニルセンと、お得意の作曲家の作品が並ぶ今回のプログラムでも、楽員との長く篤い信頼関係が、尽きぬ泉のごとく、潤いと輝きをもたらすことだろう。

[山崎浩太郎／音楽評論家]

Program Note | 高松佑介

ヘルベルト・ブロムシュテットのブルックナーは、手兵ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団との交響曲全曲録音や、2016年から新しく編纂中の『新アントン・ブルックナー全集』で《交響曲第4番》第2稿を献呈されていることが端的に示すように、国際的に篤い信頼を獲得している。彼の端正でクリアな響きや構築力のある音楽づくりは、《第5番》を特徴づける緻密な作曲技法と楽曲の大きな流れ、そして均整のとれたプロポーションを最良の形で引き出してくれるに違いない。なお本日はノヴァーク版を用いて演奏すること、来るブルックナー生誕200年を先取りする注目の公演である。

交響曲 第5番 変ロ長調

アントン・ブルックナー(1824~1896)はオーストリア帝国リンツ郊外の小村アンスフェルデンに学校教員の息子として生まれ、20代は聖フローリアンを拠点に学校教員やオルガン奏者として、30代はリンツを拠点にオルガン奏者や合唱協会の指導者として活躍した。この頃には、教会音楽を中心とする合唱作品を多く作っている。

その傍らで30代にはジーモン・ゼヒターとオットー・キツラーに師事して作曲を基礎から徹底的に学んでいる。そしてその成果をもって40代から拠点をウィーンに移し、音楽院教授を務めながら交響曲創作に打ち込んだ。こうして、亡くなるまでの約30年間に、番号の付いた交響曲を9つ遺した。経歴は一風変わっているが、ブルックナーは「交響曲作家」を自任するほど熱意をもってこのジャンルと向き合い、ようやく^{よわい}齢60にして《交響曲第7番》で国境を越えた成功を手にすることとなった。

ブルックナーの交響曲はどれも4つの楽章から成り、演奏会場では一作品で1時間を超えるような時空間を共有することになる。そしてその行路の最後には、主和音が高らかに鳴り響くのが常である。フリードリヒ・ニーチェが「神は死んだ」と説いた19世紀後半、キリスト教世界の価値観が根本から揺らいだ時代にあつて、この神々しいほどの圧巻の音響に、聴き手が一種の法悦を感取したとしても不思議ではない。

《交響曲第5番》は1875年2月に第2楽章から、第1楽章、第3楽章、第4楽章の順で作曲された。1876年5月16日に総譜の最初の下書きを完成させたあと、ブルックナーは8月に敬愛するリヒャルト・ワーグナーによるバイロイト祝祭劇場のこけら落とし公演、《ニーベルングの指環》四部作の初演に招待されている。そして1877年に修正を施し、1878年1月4日に完成した。その後約15年にわたってオーケストラでの演奏機会がなく、1894年の初演にはブルックナーが健康上の理由で立ち会えなかったため、作曲者が唯一聴けたのは2台ピアノ版での演奏のみであった。

ブルックナーの人生において、この曲に取りかかった1875年初頭は経済的・精神的苦況の真ただ中であつた。彼は前年に教師養成学校での職を失い、音楽院の給料だけでは生活できず、ウィーン移住を後悔して「私の人生はすべての喜びや気概を失いました」と手紙に書いている。だが同年11月には好機が巡ってくる。1867年以来何度か^{かな}試みながらも採用されなかったウィーン大学での教授職(和声法と対位法)に就くことが叶い、^{かな}念願だった社会的地位と経済的保証が満たされたのである。

以上のような波乱の時期に成立した《交響曲第5番》だが、手紙での落胆ぶりとは裏腹に、この曲を見ると作曲家としての腕前と気概で満ちている。この曲は彼自身が「対位法上の傑作」と語ったと伝えられており、複数の主題を伸縮自在に組み合わせるポリフォニーの技術が駆使されている。特に第1・4楽章の展開部や、第4楽章第1主題の

フーガに注目されたい。

第1楽章(序奏:アダージョーアレグロ)は緩徐導入部に続いて3つの主題によるソナタ形式をとるが、主調の曖昧さが際立っている。第1主題に二音ではなく変二音が用いられることによって主調の変ロ長調が遠ざけられ、変ロ短調/変ト長調の響きが遍在しているのだ。ゆえに漂うような神秘的な音調が生み出され、楽章末で鳴り響く変ロ長調が一層引き立つこととなる。

第2楽章(アダージョ:非常にゆっくりと)は、木管楽器による哀歌的なA主題と、弦楽器による力強いB主題が交互に現れるA—B—A'—B'—A"という5つの部分から成る。最後のA"部で万華鏡のごとく色彩豊かに変転する和声も聴きどころだ。

第3楽章(スケルツォ:モルト・ヴィヴァーチェ)は、主部—トリオ部—主部の3部から成る。主部は、第2楽章冒頭を速めた伴奏を背景に始まり、木管楽器の第1主題と、テンポを落とした弦楽器の第2主題によるソナタ形式で構成される。素朴なトリオ部のバスに頻出する5度跳躍は、この交響曲の重要な主題に共通する動機要素でもある。

第4楽章(終曲:アダージョーアレグロ・モデラート)は、第1楽章の導入部の回帰に続いて第1・2楽章の主要主題が顔を見せるといふ、ベートーヴェンの《第9》を模した形で始まる。これらの断片を繋ぐ動機からフーガが紡ぎ出され、このフーガ部分を第1主題とする3つの主題によるソナタ形式が構成される。第3主題と展開部との間には新たなコーラル主題が登場し、展開部や再現部で効果的に用いられるのみならず、楽曲末の高揚にも貢献する。

作曲年代	1875年2月～1876年5月16日、1877年改訂、1878年1月4日完成
初演	1894年4月9日、グラーツ、フランツ・シャルク指揮(ヨーゼフ・シャルクによる2台ピアノ版:1887年4月20日、ウィーン)
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、弦楽

Anton Bruckner (1824-1896)

アントン・ブルックナー

ひと粒で2度おいしい交響曲

A
2023
OCTOBER
[第1992回]

ブルックナーの交響曲は長大で、圧倒されるような音響が特長だ。そして、彼が残した交響曲には、複数のバージョンがあることが少なくない。これは、同じ交響曲をブルックナー自身が書き直したり、他人が手を入れたものが残っていたりするからだ。お気に入りの曲ができれば、こういったバージョンの違いを聴き比べるのも、マニアの楽しみのひとつ。ブルックナーの交響曲は、ひと粒で2度おいしい!?



書き直したり、思い悩みながら
作曲するブルックナー
イラストレーション ©IKE

クラシック音楽は長い?

ポップスなどと比べてクラシック音楽は演奏時間の長い曲が多く、ブルックナーの交響曲のように1時間を超える作品もあったりする。それだけに、たくさんの要素が詰まっていて、まるで大長編小説のよう。冒険やロマンス、笑いや涙。ひとつの作品のなかで、山あり谷ありの起伏に富んだ展開が繰り広げられる大きな物語ストーリーを表現するには、それなりの長さも必要なのだ。

PROGRAM

B

第1994回

サントリーホール

10/25 水 7:00pm

10/26 木 7:00pm

指揮 ヘルベルト・ブロムシュテット | プロフィールは p. 6

ピアノ レイフ・オヴェ・アンスネス

コンサートマスター 西村尚也♦

◆西村尚也：名古屋出身。4歳でヴァイオリンを始め、マンハイム国立音楽大学を最優秀の成績で卒業。これまでにバリ管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団などにゲスト・コンサートマスターとして招かれている。ハンブルク交響楽団第1コンサートマスターを経て、現在マインツ州立管弦楽団の第1コンサートマスター。

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73

「皇帝」[38']

I アレグロ

II アダージョ・ウン・ポーコ・モート

III ロンド：アレグロ、マ・ノン・トロポ

—— 休憩 (20分) ——

ブラームス

交響曲 第3番 へ長調 作品90[38']

I アレグロ・コン・ブリオ

II アンダンテ

III ポーコ・アレグレット

IV アレグロ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

レイフ・オヴェ・アンスネス(ピアノ)



© Masahiro Hara

レイフ・オヴェ・アンスネスは1970年、ノルウェーのカルメイに生まれ、ベルゲン音楽院でイルジー・フリンカに学んだ。端正なアプローチと素朴で清新な感性をもって、1990年代から時流に流されず、着実な歩みを重ねてきた。現在はベルゲンに在住。室内楽にも積極的なピアニストで、母国で音楽祭も主催する。同時代作品の初演にも意欲的に取り組む一方、レパートリーには慎重な姿勢をとり、シーズンごとのプログラムも絞りこんでいる。

協奏曲に関しては、2000年代半ばからラフマニノフに重点的に取り組み、NHK交響楽団とも2008年にノセダの指揮で《第2番》を、2011年にはブロムシュテットの指揮で《第3番》を共演した。2010年代にはベートーヴェンの全協奏曲、2020年代に入るとモーツァルトの諸作でマラー室内管弦楽団を弾き振りし、ツアーとレコーディングを企画。N響との初共演もベートーヴェンで、1999年にデュトワの指揮で《第5番》を聴かせていた。今秋、2016年11月以来となる5度目のN響定期公演は、信望の篤いブロムシュテットとの同曲での共演だけに、さらなる進境と成熟が期待される。

[青澤隆明／音楽評論家]

Program Notes | 小室敬幸

初演の指揮者ハンス・リヒターは、ブラームスの《交響曲第3番》をベートーヴェンの《英雄》になぞらえた。ブロムシュテットもまた両端楽章が劇的で力強いことを例示しながら、この交響曲はブラームスの《英雄》なのだという。しかしベートーヴェンと異なり、ブラームスの《3番》では全楽章の終わりが柔和だ。ブロムシュテットは語る——「これは諦めであり、悲劇的な終わりではありません。(中略)美しく赤い空などが秋の色彩に染まるのです」と。

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

「皇帝」という副題はルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770~1827)の没後、ロンドンを拠点としていた作曲家で出版業を営んでいたヨハン・バプティスト・クラマー(1771~1858)によって付けられたと長年考えられてきた(ただし、確たる証拠はない)。ベートーヴェンがこの協奏曲を作曲していたのは1808年12月~翌年夏にかけて。当時のウィー

ンは皇帝ナポレオン率いるフランス軍に攻め込まれ、オーストリア皇帝であるフランツ1世は疎開していた……そんな状況で皇帝を讃えるような作品を書くわけがなかった。

前作《ピアノ協奏曲第4番》の初演・再演まではベートーヴェン自身が独奏を務めていたが、本作では聴覚障害の悪化から遂に他者へ委ねている。また作曲者の没後、ベートーヴェンにとって孫弟子にあたるフランツ・リスト(1811~1886)がレパートリーにしていたことは興味深い。というのも後述するように、本作のなかにはリストの作曲技法として知られる「主題変容」(主題の性格を変えていく手法)の先駆けとなる変奏があらわれているからだ。

当時としては異例のカデンツァ風のピアノから始まる第1楽章は、明るく勇壮な第1主題、優しく悲しげに始まる第2主題が核となる。協奏ソナタ形式(序奏—提示部1:管弦楽—提示部2:独奏と管弦楽—展開部—再現部—カデンツァ風に始まる結尾)に沿ってドラマを生み出していく。第1主題の叙情的な変奏は、まるで「主題変容」のようだ。

緩徐楽章である第2楽章は、3部形式と変奏曲をかけ合わせた構成(主部:主題—中間部—主部:変奏1—主部:変奏2—第3楽章への移行部)。変ホ長調の遠隔調であるロ長調になり、弦楽器は弱音器付きなので、非常にたおやかでとろけるような雰囲気にも包まれている。最後の移行部で新たな旋律が浮かび上がってくると、それを第1主題とする第3楽章に切れ目なく突入。ロンド・ソナタ形式(提示部[第1主題—第2主題—第1主題]—展開部—再現部)で、第1主題は威勢がよいだけでなく、変奏されるなかでさまざまな性格をもった音楽に姿を変える。

作曲年代	1808年12月~翌年夏にかけて
初演	1811年1月13日、ルドルフ大公のピアノ独奏、ウィーン
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

ブラームス

交響曲 第3番 へ長調 作品90

1891年、当時58歳だったヨハネス・ブラームス(1833~1897)は遺書をしたためる。そして死後を強く意識して、楽譜のスケッチなどを処分するようになっていった。このような資料が破棄されたことで創作過程が掴めなくなったと考えられる作品がブラームスには多数あるのだが、1883年に書かれたこの《交響曲第3番》もそのひとつである。

有力な説がないからこそ、さまざまな解釈がなされてきた。作曲の前年に起きたアルト歌手との成就することのなかった恋愛を反映しているのだという説。あるいは第1楽章冒頭に提示される3つの音「F=ファ/abe=ラb/f=ファ」(※Beは独語でb)が、ブラームスの座右の銘である「Frei aber froh(自由に、しかし喜ばしく)」に由来しているとい

う説——これはブラームスと親しく交流した音楽評論家マックス・カルバックによるブラームスの評伝(1904~1914年出版)に書かれたものだ。

はたまたこの《第3番》を作曲した年に亡くなったワーグナーの《タンホイザー》から影響を受けているという説。さらに1990年代には音楽学者マクレアリによるフェミニズムの観点からの解釈(例えば第1楽章の第2主題を、カルメンやデリラといった異文化の女性からの誘惑として読み解く)まで存在している。

だが結局のところ、楽譜から読み取れることしか確たる情報はない。交響曲全体の大枠は長調から短調へと向かう2重構造(第1楽章[へ長調]→第4楽章[へ短調]／第2楽章[ハ長調]→第3楽章[ハ短調])によって形作られている。そうすることで終楽章へ向かうほど、紅葉が深まっていくような印象を我々に与えているのだ。

長調と短調が混在したハーモニーを伴う3つの音(ファ/ラ♭/ファ)から始まる**第1楽章**は、ソナタ形式(提示部—展開部—再現部—結尾)。提示部を形作っていく、弦楽器がダイナミックに下行を繰り返す第1主題と、クラリネットが優しく奏で始める第2主題は、展開部などでは性格が真逆になるのが興味深い。

緩徐楽章となる**第2楽章**も、ソナタ形式。クラリネットの陰翳^{いんえい}豊かな音色が秋の深まりを感じさせるが、朗々と歌う弦楽器はまだまだ若さを手放そうとしない。

本来であれば舞曲的な楽章となるはずの**第3楽章**だが、実質的には2つ目の緩徐楽章。シンプルな3部形式(主部—中間部—主部)で、中間部は長調に転じるのだが、まるで甘き死^{いぎな}へ誘われんかのようだ。

再びソナタ形式となる**第4楽章**は、老いを自覚しながらもそれに抗^{あらが}ってゆく。結尾で長調へと戻ること悲劇は避けられるが、輝かしい勝利がもたらされることもない……これはやはり諦めなのだろう。

作曲年代	1883年
初演	1883年12月2日、ハンス・リヒターの指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

不屈の作曲家ベートーヴェン。そのイメージは、耳の病を乗り越えながらも音楽家であり続けたことが大きく関係しているだろう。本日演奏されるのはそんなベートーヴェンが書き上げたピアノ協奏曲。当時は作曲家自身がピアノのソリストを務めることが多く、実際ベートーヴェンもピアノ協奏曲の《第1番》から《第4番》は自分自身が初演のソリストを務めた。しかし《第5番「皇帝」》の頃にはもう耳が悪く、ソリストを務めることは叶わ^{かな}なかった。この《皇帝》が、ベートーヴェン最後のピアノ協奏曲となった。

B 2023, OCTOBER
[第1994回]



闘志を徹やすベートーヴェン
イラストレーション©IKE

Ludwig van Beethoven (1770-1827)

耳の病を乗り越えた不屈の天才 ルートヴィヒ・ファン・ ベートーヴェン

カデンツァ

オーケストラとソロ楽器とによる「協奏曲」において、ソリストが自分のテクニックや個性を披露するような箇所。両端楽章に入れられることが多く、人気ソリストの超絶技巧を存分に楽しめる。モーツァルトやベートーヴェンの時代は、作曲家自身がソリストを務めることが多かったため、カデンツァ部分は即興で演奏されていたが、この《皇帝》でベートーヴェンは、しっかりと「カデンツァの楽譜」を用意した。自分ではない人が、初演を担当することになったからだろうか。

PROGRAM

C

第1993回

NHKホール

10/20 **金** 7:30pm

10/21 **土** 2:00pm

指揮

ヘルベルト・ブロムシュテット | プロフィールはp.6

コンサートマスター

篠崎史紀

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

20日(金)6:45pm～/21日(土)1:15pm～

ヴァイオリン: 青木 調、俣野賢仁 ヴィオラ: 坂口弦太郎 チェロ: 山内俊輔

ニルセン/弦楽四重奏曲 第4番 作品44—第1楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

ニルセン

アラジン組曲 作品34

—「祝祭行進曲」「ヒンドウの踊り」

「イスファハンの市場」「黒人の踊り」

[13']

シベリウス

交響曲 第2番 二長調 作品43[43']

I アレグレット

II テンポ・アンダンテ、マルバート

III ヴィヴァチッシモ—レント・エ・スアーヴェ

IV 終曲:アレグロ・モデラート

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksyo.or.jp/enquete.html>

同い年のカール・ニルセン(1865～1931)とジャン・シベリウス(1865～1957)。後期ロマン派の時代に創作活動を始め、ヨーロッパやロシアでは次々と新しい音楽が生まれていく近代において、それぞれ自身の様式を模索し続けた北欧の作曲家である。ニルセンの《アラジン》は、彼の6つの交響曲の中で特に独創的な《第4番》と《第5番》の間の時期に書かれた作品。そしてシベリウスの《交響曲第2番》は、彼の7つの交響曲の中でも人気が高い、まさに代表作中の代表作という、興味深い本日のプログラムである。

ニルセン

アラジン組曲 作品34—「祝祭行進曲」「ヒンドゥーの踊り」「イスファハンの市場」「黒人の踊り」

《アラジン組曲》は、劇付随音楽《アラジン—5幕のおとぎ話劇》から抜粋された7曲から成る作品である。もとの付随音楽は、デンマーク王立劇場からの委嘱で、同国の作家アダム・エーレンスレーヤ(1779～1850)が『アラジンと魔法のランプ』の物語に基づいて書いた戯曲『アラジン』(1805年出版)のために作曲された。演奏時間は80分を超える大作である。実のところニルセンは、1917年初頭に劇場から依頼を受けた時は乗り気でなかった。王立劇場は、かつてニルセンが1889年からオーケストラのヴァイオリン奏者として、1908年から1914年までは指揮者として長く在職したのだが、その劇場との関係はぎくしゃくしたものだったからである。さらに1919年2月の初演では、演出家が音楽を短くしたり曲順を変えたりした上、舞台を拡大してオーケストラを窮屈な場所に押し込んでしまったために、ニルセンは「芸術的責任を担えない」として、ポスターやプログラムから自分の名前を消すよう願ったほどだった。とはいうものの、《アラジン》はアイデアに富み、異国風の踊りや善と悪の特徴づけなどを通じて彼の様式を大きく発展させた作品で、それは1922年に完成する《交響曲第5番》に反映されることになる。

ニルセンは《アラジン》からの抜粋をしばしばデンマーク国内外で指揮し、好評を得た。それはグリーグが自身の劇付随音楽《パール・ギェント》(1874～1875年作曲)からの抜粋による組曲をノルウェー国内外で指揮したのに似ている(作品の性格も似たところがある)。ニルセンは、亡くなる丸一日前にも演奏会で指揮する予定だったが、心臓発作でできなくなり、病床で〈祝祭行進曲〉、〈ヒンドゥーの踊り〉、〈黒人の踊り〉を録音ラジオから聴いた。7曲から成る組曲としてまとめられ出版されたのは作曲家の没後、1940年のことだった。本日演奏されるのは、その第1、3、5、7曲である。

〈祝祭行進曲〉は、アラジンが魔法のランプの力を借りて準備した宝石を王宮へ運ぶ奴隷たちの行列に付けられた音楽。打楽器やピッコロの用法などから東洋風な性格が

濃く感じられる。〈ヒンドウーの踊り〉は、アラジンと王女の結婚披露宴での踊りのうちの1曲である。〈イスファハンの市場〉は、美しくにぎやかなイスファハンの広場の様子を描いたもの。オーケストラが4つのグループに分かれて異なる旋法とテンポの音楽を同時に奏する。〈黒人の踊り〉も結婚披露宴での1曲である。強烈な2拍子のリズムに乗って快活に奏される。曲の終わりに向かって一層速くなり、壮麗なクライマックスとなる。

作曲年代	1917～1919年(大部分は1918年7月～1919年1月に作曲)
初演	1919年2月15日(第1夜)、2月22日(第2夜)、デンマーク王立劇場、フェアディナン・ヘメ指揮、デンマーク王立管弦楽団。なお、初演に先立って1919年2月6日に、5曲の抜粋がコペンハーゲン音楽協会でニルセンの指揮により演奏された
楽器編成	フルート2(ピッコロ2)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、タンブリン、トライアングル、タムタム、小太鼓、シンバル、シロフォン、大太鼓、カ斯塔ネット、弦楽

シベリウス

交響曲 第2番 二長調 作品43

この交響曲はフィンランドがロシアの圧政下にあった時代に作曲された。その初演は、シベリウスの愛国的な音詩《フィンランディア》の初演から2年後の1902年。大成功だったが、聴衆の多くは終楽章の高揚を独立闘争の来たるべき勝利と解釈した。しかし、シベリウスはこのような標題的解釈を嫌った。彼は後年、78歳の時に、「私の第2交響曲は魂の告白である」と手紙に書いている。

《交響曲第2番》の作曲に取りかかる前年の1900年。シベリウス夫妻の間には3人の娘が生まれていたが、末娘が2月にチフスで亡くなり、一家は悲しみに沈んだ。その夏、シベリウスはパトロンとなるアクセル・カルペラン男爵(1858～1919)と親しくなり、イタリア旅行を勧められる。秋になると、シベリウスはまずベルリンに滞在し、翌1901年になってからイタリアへ行き、ジェノヴァ近郊のラパッコという海沿いの町で家族のためのペンションと仕事部屋を借りた。冬でも温暖な気候、フィンランドとは異なる環境で、次々とアイデアが思い浮かんだ。この時には4つの音詩の作曲を考えていた。その頃のスケッチには、南欧の伝説上の人物ドン・フアンのところに死の客が訪ねて来るのを想像して書かれた楽想があり、これはのちに《交響曲第2番》第2楽章の第1主題となる。この旅行では、シベリウスはローマにも2週間ほどひとりで滞在し、パンテオンやコロッセウムなどの古代建築物を訪れたり、ヴェルディのオペラやパレストリーナの宗教音楽を鑑賞したりした。さらにフィレンツェでは同地出身のダンテの叙事詩『神曲』に基づく新作品の構想を練った。当時のスケッチの一部が、《交響曲第2番》第2楽章の第2主題となる。そのスケッチには「キリスト」と書かれており、数か月前にベルリンで聴いたリストのオラトリオ《キ



20 & 21. OCT. 2023

リスト》の影響もあったと考えられる。これらを含む膨大なスケッチを持ち帰り、本格的な作曲はフィンランドでとなるが、最終的には交響曲という形が選ばれた。こうして仕上がった《交響曲第2番》は、感謝を込めてカルペラン男爵に献呈された。

第1楽章は、さざ波のような弦楽合奏で始まる。上行する3つの音(ここではファ#ーソラ)はこの交響曲全体の重要なモチーフである。**第2楽章**は、前述のイタリアでのスケッチがもとになった2つの主題を軸とする、悲しみと叫びと祈りの深遠な世界。**第3楽章**は非常に急速なテンポで始まるスケルツォである。アタッカで(切れ目なく)終楽章に入る。第1楽章冒頭のモチーフが、**第4楽章**では大河のようなメロディとなって第1主題を作る。哀愁を帯びた第2主題は、楽章後半では長大なクレッシェンドの中で繰り返されてニ長調に到達し、最後は第1主題が現れて輝かしい賛歌となる。

作曲年代	1901～1902年
初演	1902年3月8日、作曲家自身による指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、弦楽

C
2023
OCTOBER
[第1993回]
🎵🎵

フィンランドを代表する作曲家

ジャン・シベリウス

Jean Sibelius (1865-1957)

シベリウスは10歳の時にヴァイオリンに出会ってから、この楽器に惚れ込んでいたようで、当初はヴァイオリニストを目指していた。その後、作曲家になったあとも、よくヴァイオリンを奏でていたようだ。シベリウスが作曲した交響曲はどれもすばらしい傑作ぞろいで、なかでも一番人気をほこるのが本日演奏される《交響曲第2番》。北欧の作曲家らしい、雄大なスケール感と、最後の輝かしい賛歌を堪能してほしい。



フィンランドの自然のなかで
ヴァイオリンを奏でるシベリウス
イラストレーション: ©IKE

アイノラ

成人してからフィンランドの首都ヘルシンキに住んでいたシベリウスは、38歳の時に妻や子どもたちとともに郊外へと移り住む。ヘルシンキまでおよそ40キロ程度のヤルヴェンパーの地に建てた家は、トゥースラ湖をのぞむ自然あふれるロケーションで、現在では博物館としておもに夏のあいだ公開されている。生来、自然のなかで過ごすことを好んだシベリウスはこの住まいをここのほか気に入り、妻アイノの名前をとって「アイノラ」と名付け終の住処とした。

N響百年史

第四十回 一日比谷公会堂へ！

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。山田耕筰との手打ちも済み、第百回の記念公演を迎える新交響楽団。折からの世界大恐慌が楽団に揺さぶりをかけます。

第100回定期演奏会のプログラム公募

「新交響楽団は本年十二月をもつて満五ヶ年^{しか}第百回の予約演奏会を迎えます。(中略)然してこの演奏会を外型的にも又内容に於ても「お祭り化^おしたくありません」——1931(昭和6)年、機関誌『フィルハーモニー』などに繰り返し載せられた文章である。オーケストラの歩みは決して順風満帆ではない。同年には楽団の分裂を招いたコロナ事件もあった。だが、めげてはられない。オーケストラが続くかぎり、定期公演(当時は予約演奏会)を重ねなければならない。12月16日がついに第100回だ。会場はいつものように日本青年館。その大きな節目を単なるお祭りにしたくないと、新交響楽団は言う。何を意味するのか。自己満足的で押し付けがましい催事にしたくないということだ。

はて、具体的には？ どうする新響？ 決め台詞はこうである——「この一夜の曲目を広く会員諸賢の御選択を得たいと存じます」。聴衆のリクエストに応ずる、開かれたコンサートにした。しかも、楽曲の人気投票をして上位の作品を並べるのではない。「一夜の曲目」をまるごと提案してもらう。第100回に限らず、これからのコンサートの曲目構成に定期会員の意見をなるとだけ反映していきたいのだという。

そんな行き方は、新交響楽団を率いる近衛秀麿^{このま}がコロナ事件を踏まえて打ち出した、オーケストラの新たな方針から導かれたものだった。その新方針とは大別すれば4つ。1番目には指揮者の陣容を厚くする。近衛は言う。欧米で音楽都市と名乗る町には少なくとも数人程度の優れた指揮者が暮らしているものだ。新交響楽団の指揮者陣も豊かにしなければならない。近衛と彼を助けるニコライ・シフェルブラットが

交互に出るばかりでは、いかにも貧しい。海外招聘も大いに結構だ。山田耕筰とよりを戻した理由は、この方針にも求められる。近衛は実は東京に縛られたたくなっている。新交響楽団よりも欧米のオーケストラを振りたい。長期の演奏旅行をいつでもできるようにしたい。そのために新交響楽団の指揮台をもっとオープンにしておく。そういう含みもある。2番目にはレパートリーを増やす。すでに触れたとおり、近衛は1920年代のヨーロッパのオーケストラの新作熱に感化されていた。近代音楽重視は時代の趨勢だ。3番目は楽員の技量向上。コロナ事件もそこに関連して引き起こされた面がある。SPレコードで欧米の一流オーケストラに親しんで、録音の響きと生の新交響楽団の響きを比較したが多くの聴衆に対して、現在の演奏水準ではあまりに心もとない。近衛からして新交響楽団を指揮することに大きな喜びを見出せなくなってしまう。4番目は定期会員との一体感の醸成。なにしろ会員は厳然たる事実として減る傾向にあった。理由は演奏水準にばかり求められない。音楽家ではいかんともしがたいもっと大きな原因があるのだが、とにかく会員の減少になんとしても歯止めをかけるべく、できることはせねばならない。

むろん、この4番目と連動したのが、第100回定期公演のプログラム公募である。熱心な定期会員は刺激された。応募を競った。若い人が多かったようである。当時の新交響楽団の定期会員には、社会の上層・富裕層の子弟がかなりいたと考えてよい。客席は満杯にはほど遠かったけれど、若き血はうねっていた。西洋クラシック音楽こそ、われらの世代の教養にして趣味。青春を新交響楽団とともに送る人々が現れていた。

選ばれたメイン・プログラムは近衛の大曲

『フィルハーモニー』の1931年10月号に、応募プログラム案のなか、特に良案とみなされたものがいくつか紹介されている。朝吹英一のアイデアも載る。大実業家・朝吹常吉の長男で、慶應義塾に学んでアメリカにも行き、木琴奏者として売り出し中。二十歳を過ぎたばかりの知名の青年だ。モーツァルトの《歌劇「フィガロの結婚」》の序曲で始め、バッハの《2つのヴァイオリンのための協奏曲》に行き、ベートーヴェンの《交響曲第7番》で結ぶ。東郷安正の案も出ている。男爵で貴族院議員の東郷安の子。当時十代半ばである。第100回は国歌《君が代》の管弦楽演奏で始めるべきとする。そのあとはブラームスの《大学祝典序曲》とベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第4番》。締めは朝吹と同じくベートーヴェンの《交響曲第7番》だ。人気曲であるにもかかわらず、定期公演ではしばらく取り上げられていなかったせいかもしれない。

さて、当選したのは？ 高山哲太郎という人だ。彼の案もベートーヴェンの《交響曲第7番》を入れている。しかしトリではない。1曲目だ。それを受けるのはショパンの《ピアノ協奏曲第1番》。これだけでも十分な分量だが、後半にさらなる大曲を置く。近衛の《大礼交声曲》である。1928(昭和3)年11月10日、昭和天皇の即位の大礼が京都御所であった。新交響楽団が奉祝のための特別演奏会を催したのは11月3日のこと。その目玉の曲目として世界初演されたのが《大礼交声曲》だった。格調あるドイツ音楽の流儀に則る大作で、3人の独唱と大合唱を用いる。近衛の作曲として最大規模であり、本人も代表作と自負していた。第100回にちょうどいいではないか。とはいえ、コロナ事件直後で、山



第100回の記念公演。指揮台をはさんで近衛秀麿、ニコライ・シフェルブラットとマキシム・シャピロが、並んで中央に立っている

田耕筈ともよりを戻すかたちになったばかりの新交響楽団だ。近衛が威張る格好になりすぎると角も立ちやすい。でも、定期会員の希望となれば、話は違ってくる。堂々とやれる。この経過にはなんらかの深謀遠慮があったかもしれない。なにしろ高山哲太郎は近衛文麿ふみまるの家の書生で、秀麿とも当然近しかった。実は近衛秀麿が曲目を差配したのかと想像したくもなる。が、定期会員からの公募と選考の結果である事実は揺らぎようがない。とにかく第100回定期公演では、ベートーヴェンをニコライ・シフェルブラットが振り、ショパンをマキシム・シャピロが独奏し、最後は近衛の自作自演が燦然さんぜんと鳴り響き、9月には満洲事変も起きた激動の1931年も暮れて行った。

大恐慌によるデフレが生んだ会場移転

ところで、この時期、新交響楽団の将来に暗雲を垂れこめさせていた定期会員の減少は、何に由来するのだろうか。あらためて確認する

までもない。第99回と第100回の定期公演の案内や曲目解説を掲載する『フィルハーモニー』の1931年12月号の巻頭言はこう述べる。「国政にも経済的にも内憂外患の秋我貧弱な楽壇は一たまりもなく其そのあほりを受けた。(中略)日本の楽壇がこの不況中を音楽愛好者だけによつて支持され通すか否かは、今日迄までに西洋音楽が、どの程度までに日本人の生活に食ひ入ったかの如何いかんにある」。第100回の喜びはない。ほとんど悲壮である。1929(昭和4)年からの世界大恐慌が日本にも深く響いていた。早めに明るさを取り戻せるのではないかという楽観論も、いつの間にか消し飛んでいた。そのことは聴衆の財布の紐ひもと赤裸々に連動する。『フィルハーモニー』の1932(昭和7)年7月号の投書欄で、ある定期会員はこう述べる。

「昨夜、新世界交響曲を聞き乍ら、漫然まがと新響の更生法に就いて考へて見た」。近衛の振った、5月8日の第109回定期公演のときのことであろう。更生法！一介の聴衆にそんな心配をされるまで、新交響楽団の危機は深まっていた。

会員は嘆く。「当夜の演奏は確かに出来が悪かったり、聴衆も又馬鹿に少なかった」。だから彼は演奏に集中できず、更生法に思いを巡らせたのである。彼は言う。新交響楽団のひとつき3円もの会費！「之が瘤だ」。A会員が5円でB会員が3円。彼はB会員だ。安いほうを買っている。それでも厳しいという。月に2回の定期公演に「それだけ払ふのは高いと云ふ事は定評」。彼は断言する。「比較するのは酷かも知れないがブライロフスキイにしてもシュメーにしても一円で聴かれるのに、どう考へても三円は高過ぎる」。キエフ出身でショパンをよく弾く名ピアニストのアレクサンダー・ブライロフスキーや、宮城道雄と共演して《春の海》を奏でたフランスの女性ヴァイオリニスト、ルネ・シュメーのような、話題の外来演奏家の公演のほうが、新交響楽団のB券1回あたり1円50銭よりも安い。日本青年館はガラガラになり、オーケストラはやる気を失う。当然の悪循環だ。定期会員券は値下げされねばならない。世界の景気は冷え込む一方で、需要は縮小し、供給は過剰となり、デフレが進行し、物の値段も個人の所得もひたすら下がっている。日本では、1930(昭和5)年も翌年も、卸売物価指数の下落率は2年続けて15パーセントを超えた。1928(昭和3)年秋を100とすると、1932(昭和7)年秋には65。35パーセントも下がっている。新交響楽団のチケットもそのくらい下がらねば見合わない。富豪や華族の息子ばかりが会員ではないのだ。投書に記された希望はこうだ。1か月に2回の定期でB会員は2円にしてほしい。なるほど、デフレ率に見合っている。しかし、それだけ下げても会員は喜んだとしても、そのぶんを償うだけの新会員が

募集できなければ、結果は新交響楽団の単なる大減収で終わる。良策はあるか。投書した定期会員は知恵を絞る。が、決定打に至らない。

けれど、耳の痛いこの投書を『フィルハーモニー』の編集部がわざわざ載せたのはなんとなくではない。事態はこの投書の願いを実現するかのように進む。1932年9月30日の第113回から定期公演のありようが大きく変わった。まず年間の回数が減った。それまでの20回から15回に。4分の1の減である。それから値下げした。1年でA会員が50円、B会員が30円だったところ、それぞれ30円と15円にした。1回あたりだと、A会員が2円50銭でB会員が1円50銭だったところが、それぞれ2円と1円になった。デフレ時代とはいえ、思い切った決断である。コンサートの数を少なくしたぶん、経費は節約されるだろう。けれど、値下げも加わって大減収にならないか。そこは頑張れるとオーケストラは算盤をはじいた。定期公演の会場を変えたのだ。神宮外苑の日本青年館から、日比谷公園内の日比谷公会堂へ。交通の便は日比谷のほうが良い聴衆も多いだろうし、日本青年館よりも日比谷公会堂のほうがだいぶん広い。値下げも組み合わせさせて定期会員を増やせるかもしれない。会場移転は新交響楽団の存亡を賭けた大博奕だったのである。

文 | 片山杜秀(かたやまもりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

次回予告

定期会員を増やすべく、海外演奏家の招聘・レパートリーの充実・値下げ・会場移転と、新交響楽団の存亡を掛けて次々に練り出された方策は、やがて新響のひとり立ちへとつながっていきます。

2023年11月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

巨匠・ベテラン・若手と、世代の異なる指揮者たちが、それぞれの“お国物”を披露する。ひと口に故郷の音楽と言っても、育った時代や環境によって、受け止め方はさまざまであろう。今回の3人も、各自の流儀で祖国の作品に向き合い、個性的な演奏を聴かせてくれる。

悠久の時を感じさせる“フェドセーエフ節”をロシアの名品で堪能する

大地を思わせる深い呼吸、曲のツボを押さえた自在な手綱さばきが[Aプログラム]の指揮者ウラディーミル・フェドセーエフの持ち味である。スヴィリドフは、ロシア人が愛してやまない20世紀の作曲家。《三部作》の魂の底から湧き上がってくるようなメロディや、トロイカの疾走する雪景色が目浮かぶ、リズムカルな鈴の音などは、民族の垣根を超え、私たち日本人の心にも強く訴えかけてくる。オペラのダンス音楽3曲に続くのは、リムスキー・コルサコフ《歌劇「雪娘」組曲》。小鳥の啼き声^なが長い冬の終わりを告げ、道化師が軽快な踊りを繰り広げる。この曲にもロシアの風物が詰まっている。

《バレエ組曲「眠りの森の美女」》はフェドセーエフによる抜粋版。「親しみやすい選曲

を心がけた」というが、華やかな場面よりも、じっくり“歌”を聴かせる構成が特徴的だ。有名な〈ワルツ〉や、〈パノラマ〉の幻想的なシーンで、悠久の時を感じさせる“フェドセーエフ節”が全開となるだろう。世界は困難な局面にあるが、「音楽こそが愛を思い出させてくれる、唯一の薬」と語るマエストロ。彼にしか組めない、とっておきのラインナップである。

オーソドックスな交響曲と晩年の神秘的交響詩—2つのシベリウスの世界を味わう

[Bプログラム]は、フィンランドのユッカ・ペッカ・サラステによるシベリウス。《交響曲第1番》はオーソドックスな4楽章形式。一方、《交響詩「タピオラ」》は、民族叙事詩『カレワラ』を創作の糧とした作曲家が、最後に行き着いた神秘的境地。2曲の創作年代には30年近い開きがあり、スタイルは明確に違うものの、共にまごうことなきシベリウスの世界だ。

サラステはヴァイオリニスト出身らしく、上声部の淀み^{よど}ない流れで音楽の推進力を生み出していくタイプだが、かつてシベリウスの音楽を「まるで無重力の空間を漂うようだ」と評していた。独特のシベリウス観がにじみ出た演奏

になるだろう。

ストラヴィンスキー《ヴァイオリン協奏曲》は、ソロの派手な技巧というより、オーケストラの各楽器との組み合わせによる、音色やリズムの多彩さが聴きどころ。他ジャンルとのコラボにも積極的なベッカ・クーシストらしい選曲である。

マダラシュが自らの血肉とした 母国ハンガリーの作品を贈る

[Cプログラム]には、ハンガリーの若手、ゲルゲイ・マダラシュが初登場。民俗楽器ツインバロンが活躍する《ハーリ・ヤーノシュ》は、ほら吹き老人が語る奇想天外な冒険譚。作曲者のコダーイは優れた教育者でもあり、無料で学べる国の音楽教育システムを整備した。マダラシュもその恩恵を受けたひとりで、5歳の時にハンガリーの民族音楽学校に通い始めた。

バルトークやコダーイが民謡を収集した田舎の村々に遠足やキャンプで出かけ、失われつつある伝統の音楽にじかに接したという。

《ハンガリーの風景》で描かれるトランシルヴァニアの夕景や、独特の踊りのリズムを、マダラシュは幼い頃に見聞きしたことで、深く内面化しているに違いない。血肉となった音楽言語は、演奏にどう反映されるのか。大いに期待したい。

リスト《ハンガリー幻想曲》の主題となったのは当時の流行歌で、曲の構造はハンガリーの募兵の踊り「ヴェルブンコシュ」から影響を受けている。これは《ハーリ・ヤーノシュ》の〈間奏曲〉で使われた形式でもある。

3曲が密接なつながりを持つ“ネイティブによるハンガリーづくし”。N響ではあまり聴けないプログラムにご注目いただきたい。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 11/25 土 6:00pm
11/26 日 2:00pm
NHKホール

スヴィリドフ／小三部作
プロコフィエフ／歌劇「戦争と平和」—「ワルツ」(第2場)
A. ルビンシテイン／歌劇「悪魔」のバレエ音楽—「少女たちの踊り」*
グリンカ／歌劇「イワン・スサーニン」—「クラコーヴィアク」
リムスキー・コルサコフ／歌劇「雪娘」組曲
チャイコフスキー(フェドセーエフ編)／バレエ組曲「眠りの森の美女」
指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ
★当初発表の曲目から変更となりました



B 11/15 水 7:00pm
11/16 木 7:00pm
サントリーホール

シベリウス／交響詩「タビオラ」作品112
ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲 二調
シベリウス／交響曲 第1番 ホ短調 作品39
指揮：ユッカ・ベッカ・サラステ
ヴァイオリン：ベッカ・クーシスト



C 11/10 金 7:30pm
11/11 土 2:00pm
NHKホール

バルトーク／ハンガリーの風景
リスト／ハンガリー幻想曲*
コダーイ／組曲「ハーリ・ヤーノシュ」
指揮：ゲルゲイ・マダラシュ
ピアノ：阪田知樹*



チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご利用。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	発売中(定期会員先行) / 2023年10月17日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2024年2月7日[水](定期会員先行) / 2024年2月16日[金](一般)

料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

()内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A-Cプログラムのユースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	10・11月	発売中
	12・1・2月	2023年10月26日[木](定期会員先行) / 2023年10月29日[日](一般)
	4・5・6月	2024年2月28日[水](定期会員先行) / 2024年3月3日[日](一般)

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※「WEBセレクト3+」の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。1回券はすべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響	https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502	●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業 ●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業	

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2023-24定期公演プログラム

2023 10	A	第1992回	プロムシュテットとN響が築く荘厳な音の伽藍 ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥6,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400
		10/14(土) 6:00pm 10/15(日) 2:00pm		
	NHKホール	指揮:ヘルベルト・プロムシュテット		
2023 10	B	第1994回	巨匠の愛奏曲 ブラームス《第3番》でその至芸を味わう ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥6,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
		10/25(水) 7:00pm 10/26(木) 7:00pm		
	サントリーホール	指揮:ヘルベルト・プロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス		
2023 10	C	第1993回	ニルゼン&シベリウス プロムシュテット十八番の北欧プログラム ニルゼン／アラジン組曲 作品34 —「祝祭行進曲」 「ヒンドウの踊り」「イスファハンの市場」「黒人の踊り」 シベリウス／交響曲 第2番 二長調 作品43	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
		10/20(金) 7:30pm 10/21(土) 2:00pm		
	NHKホール	指揮:ヘルベルト・プロムシュテット		
2023 11	A	第1997回	フェドセーエフが愛おしむロシア舞台音楽の傑作たち スヴリドフ／小三部作 プロコフィエフ／歌劇「戦争と平和」—「ワルツ」(第2場) A. ルビンシテイン／歌劇「悪魔」のバレエ音楽—「少女たちの踊り」* グリカ／歌劇「イワン・ササーニン」—「クラコヴィアク」 リムスキー・コルサコフ／歌劇「雪娘」組曲 チャイコフスキー(フェドセーエフ編)／バレエ組曲「眠りの森の美女」	一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥5,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
		11/25(土) 6:00pm 11/26(日) 2:00pm		
	NHKホール	指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ★当初発表の曲目から変更となりました		
2023 11	B	第1996回	最高峰の解釈者が紡ぐシベリウス その幽玄な世界に浸る シベリウス／交響詩「タビオラ」作品112 ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲 二調 シベリウス／交響曲 第1番 ホ短調 作品39	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
		11/15(水) 7:00pm 11/16(木) 7:00pm		
	サントリーホール	指揮:ユッカ・ベッカ・サラステ ヴァイオリン:ベッカ・クーシスト		
2023 11	C	第1995回	ハンガリー出身の新星が贈る母国の名作 バルトーク／ハンガリーの風景 リスト／ハンガリー幻想曲* ゴダード／組曲「ハーリ・ヤーノシュ」	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
		11/10(金) 7:30pm 11/11(土) 2:00pm		
	NHKホール	指揮:ゲルゲイ・マダラシュ ピアノ:阪田知樹*		
2023 12	A	第2000回	渋谷から鳴動する 大宇宙を震わす響き 第2000回定期公演 マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調「千人の交響曲」[ファン投票選出曲]	一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,200 D ¥5,000 D ¥2,500 E ¥3,300 E ¥1,600
		12/16(土) 6:00pm 12/17(日) 2:00pm		
	NHKホール	指揮:ファビオ・ルイージ ソプラノ:ジヤクリン・ワグナー*、ヴァレンティナ・ファルカシュ、三宅理恵 アルト:オレシア・ベトロヴァ、カリオーナ・モリソン テノール:ミハエル・シャーデ バリトン:ルーカ・ストリフ バス:ダヴィッド・シュテフェンス 合唱:新国立劇場合唱団 児童合唱:NHK東京児童合唱団 ★当初発表の出演者から変更となりました。		
2023 12	B	第1999回	レーガールの気品あふれる名作をルイージの指揮で聴く レーガール生誕150年 ハイドン／交響曲 第100番 長調 Hob. I-100「軍隊」 リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 レーガール／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
		12/6(水) 7:00pm 12/7(木) 7:00pm		
	サントリーホール	指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:アリス・紗良・オット		
2023 12	C	第1998回	目くらめく夢幻 荒れ狂う狂騒 ルイージの「幻想」 フンパーディング／歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲 ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
		12/1(金) 7:30pm 12/2(土) 2:00pm		
	NHKホール	指揮:ファビオ・ルイージ		

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2024 01	A	第2001回 1/13(土) 6:00pm 1/14(日) 2:00pm	舞台音楽に通曉するソビエフのフランス&ロシア バレエ音楽の精華 ビゼー(シCHEDリン編)／バレエ音楽「カルメン組曲」 ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」 ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」		一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥5,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
	NHKホール		指揮:トゥガン・ソビエフ		
	B	第2003回 1/24(水) 7:00pm 1/25(木) 7:00pm	N響が誇るトップ奏者たちがモーツァルトで腕を振るう モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364 ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
サントリーホール		指揮:トゥガン・ソビエフ ヴァイオリン:郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター)* ヴィオラ:村上淳一郎(N響首席ヴィオラ奏者) *当初発表の出演者から変更となりました。			
2024 02	C	第2002回 1/19(金) 7:30pm 1/20(土) 2:00pm	ソビエフが切実に描く 恋人たちの悲劇 リヤードフ／交響詩「キキモラ」作品63 プロコフィエフ(ソビエフ編)／バレエ組曲「ロメオとジュリエット」		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
	NHKホール		指揮:トゥガン・ソビエフ		
	A	第2004回 2/3(土) 6:00pm 2/4(日) 2:00pm	井上道義 最後のN響定期でショスタコーヴィチの問題作を問う ヨハン・シュトラウスII世／ホルカ「クラップフェンの森で」作品336 ショスタコーヴィチ／舞台管弦楽のための組曲 第1番 —「行進曲」[「リリック・ワルツ」]「小さなホルカ」[「ワルツ第2番」] ショスタコーヴィチ／交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビ・ヤール」*		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400
NHKホール		指揮:井上道義 バス:エフゲーニスタヴィンスキー* 男声合唱:オルフェイドレンガル男声合唱団*			
2024 04	B	第2006回 2/14(水) 7:00pm 2/15(木) 7:00pm	エラス・カサド 母国の名作を携え5年ぶりにN響定期登場 ラヴェル／スペイン狂詩曲 プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63 ファリア／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)*		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
	サントリーホール		指揮:ハフロ・エラス・カサド ヴァイオリン:オーガスティン・ハーデリッヒ ソプラノ:吉田珠代*		
	C	第2005回 2/9(金) 7:30pm 2/10(土) 2:00pm	情熱の人 大植英次 四半世紀を経て再びN響定期の舞台上に ワーグナー／ジークフリートの牧歌 R.シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
NHKホール		指揮:大植英次			
2024 04	A	第2007回 4/13(土) 6:00pm 4/14(日) 2:00pm	妥協なき巨匠 ヤノフスキと拓くブラームス《第1番》の新たな世界 シューベルト／交響曲 第4番 八短調 D.417 ブラームス／交響曲 第1番 八短調 作品68		一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥5,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
	NHKホール		指揮:マレク・ヤノフスキ		
	B	第2009回 4/24(水) 7:00pm 4/25(木) 7:00pm	巨匠が生涯をかけて探究する シューマンの奥深き世界 シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲 シューマン／チェロ協奏曲 イ短調 作品129 シューマン／交響曲 第2番 八長調 作品61		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
サントリーホール		指揮:クリストフ・エッシェンバッハ チェロ:キアン・ソルターニ			
2024 04	C	第2008回 4/19(金) 7:30pm 4/20(土) 2:00pm	巨匠エッシェンバッハ 満を持してブルックナーをN響で初披露 ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
	NHKホール		指揮:クリストフ・エッシェンバッハ		

Cプログラムについて

- ・休憩のない、60～80分程度の公演となります。
- ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催します(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。

2024 05	A	第2010回	眼前に蘇る古今のローマの情景 そして人々の息遣い バンフィリ／戦いを生きる [日本初演] レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」 レスピーギ／交響詩「ローマの松」 レスピーギ／交響詩「ローマの祭り」 指揮:ファビオ・ルイージ	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
		5/11 [土] 6:00pm 5/12 [日] 2:00pm			
	NHKホール				
2024 05	B	第2012回	デンマーク国立響のシェフ ルイージがN響でニルセンを初披露 ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15 ニルセン／交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」 指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:ルドルフ・フブビンダー	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
		5/22 [水] 7:00pm 5/23 [木] 7:00pm			
	サントリーホール				
2024 05	C	第2011回	ルイージ&N響のメンデルスゾーン第2弾《夏の夜の夢》&《宗教改革》 メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽 —「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」 メンデルスゾーン／交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」 指揮:ファビオ・ルイージ	一般 S ¥7,600 A ¥6,700 B ¥5,300 C ¥4,300 D ¥3,300 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		5/17 [金] 7:30pm 5/18 [土] 2:00pm			
	NHKホール				
2024 06	A	第2013回	盟友 原田と反田が誘う魅力あふれるスクリャーピンの世界 スクリャーピン／夢想 作品24 スクリャーピン／ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20 スクリャーピン／交響曲 第2番 小短調 作品29 指揮:原田慶太楼 ピアノ:反田恭平	一般 S ¥9,100 A ¥7,600 B ¥5,900 C ¥4,800 D ¥3,800 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
		6/8 [土] 6:00pm 6/9 [日] 2:00pm			
	NHKホール				
2024 06	B	第2015回	楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を鈴木優人のタクトで聴く ウェーベルン／パッサカリア 作品1 シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36 バッハ(ウェーベルン編)／リチエルカータ シューベルト／交響曲 第5番 変口長調 D. 485 指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
		6/19 [水] 7:00pm 6/20 [木] 7:00pm			
	サントリーホール				
2024 06	C	第2014回	定期初登場 沖澤のどかと臨む エスプリ溢れるフランス・プログラム イベル／寄港地 ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲 ドビュッシー／夜想曲* 指揮:沖澤のどか ピアノ:デニス・コジュビン 女声合唱:東京混声合唱団*	一般 S ¥7,600 A ¥6,700 B ¥5,300 C ¥4,300 D ¥3,300 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		6/14 [金] 7:30pm 6/15 [土] 2:00pm			
	NHKホール				

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

特別公演

12/22 金 7:00pm

12/23 土 2:00pm

12/24 日 2:00pm

12/26 火 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

指揮:下野竜也 ソプラノ:中村恵理 メゾ・ソプラノ:脇園 彩 テノール:村上公太 バス:河野鉄平

合唱:新国立劇場合唱団

バーバー／弦楽のためのアダージョ

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,500円 D席4,500円

ユースチケット(25歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,250円 D席2,250円

チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引(26日公演をのぞく)

※12月26日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。定期会員の先行発売、割引はありません。

主催:NHK・NHK交響楽団 / NHK・NHK厚生文化事業団(26日公演のみ)

協賛:みずほ証券株式会社 / はごろもフーズ株式会社 / 株式会社明電舎

お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502 / NHK厚生文化事業団 TEL (03) 3476-5955 (26日公演のみ)

12/27 水 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:下野竜也 オルガン:勝山雅世* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ

バッハ／18のライプチヒ・コラール—「装いせよ、おお、愛する魂よ」BWV654*

バーバー／弦楽のためのアダージョ

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円

ユースチケット(25歳以下) | S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぼ生命保険

お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm

定休日：土・日・祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

10/29日 2:00pm | **NHK交響楽団**
ヘルベルト・ブロムシュテット[指揮] レイフ・オヴェ・アンズネス[ピアノ]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90

主催:(公財)所沢市文化振興事業団
お問合せ:ミュージケットカウンター TEL (04) 2998-7777

11/2日 7:00pm | **第180回 NTT東日本 N響コンサート**

東京オペラシティア 콘서트ホール

指揮:園田隆一郎 ピアノ:萩原麻未
シベリウス/交響詩「フィンランディア」作品26
グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
グリーグ/「ペール・ギュント」組曲 第1番、第2番

主催:NTT東日本
お問合せ:NHKプロモーション TEL (03) 5790-6423

11/5日 4:00pm | **NHK交響楽団 梅田俊明(指揮) 戸澤采紀(ヴァイオリン)**

埼玉会館 大ホール

指揮:梅田俊明 ヴァイオリン:戸澤采紀
シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47
チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
お問合せ:SAFチケットセンター TEL (0570) 064-939

11/20日 7:00pm | **NHK音楽祭2023**

NHKホール

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ 児童合唱:東京少年少女合唱隊
チャイコフスキー/バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(全曲)

主催:NHK、NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団
お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

12/9(土) 3:00pm

松戸市制施行80周年・森のホール21開館30周年記念事業

森のホール21クラシックス Vol. 4 NHK交響楽団

森のホール21 大ホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:アリス・紗良・オット
ハイdn/交響曲 第100番ト長調 Hob. I-100「軍隊」
リスト/ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
レーガー/モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132

主催:公益財団法人 松戸市文化振興財団
お問合せ:森のホール21チケットセンター TEL (047) 384-3331

1/27(土) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:トウガン・ソヒエフ ヴァイオリン:郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター) ヴィオラ:村上淳一郎(N響首席ヴィオラ奏者)
モーツァルト/ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364
ベートーヴェン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

主催:NHK大阪放送局、NHK交響楽団
お問合せ:NHK大阪ホールNHKイベントガイド TEL (06) 6947-5000

2/18(日) 4:30pm | NHK交響楽団特別公演 パブロ・エラス・カサド&牛田智大

RaiBoC Hallレイボックホール(市民会館おおみや) 大ホール

指揮:パブロ・エラス・カサド ピアノ:牛田智大
ベートーヴェン/序曲「コリオラン」作品62
モーツァルト/ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491
ベートーヴェン/交響曲 第5番 ハ短調 作品67

主催:(公財)さいたま市文化振興事業団
お問合せ:RaiBoC Hallレイボックホール(市民会館おおみや) TEL (048) 641-6131

2/25(日) 5:00pm | NHK交響楽団金沢特別公演

金沢歌劇座

指揮:沼尻竜典 チェロ:カミュー・トマ
ドヴォルザーク/スラヴ舞曲 第1集—第1番 ハ長調 作品46-1
ドヴォルザーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104
シューマン/交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

主催:石川テレビ、北陸中日新聞、サンライズプロモーション東京
お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

3/1(金) 7:00pm | NHK交響楽団 パルテノン多摩演奏会

パルテノン多摩 大ホール

指揮、クラリネット*:アンドレアス・オッテンザマー

～オール・ブラームス・プログラム～

ブラームス／大学祝典序曲 作品80

ブラームス(ブートラック&オッテンザマー編)／クラリネット・ソナタ 第1番 ヘ短調 作品120-1*

ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

ブラームス／ハンガリー舞曲集—第1番、第3番、第4番、第6番

ブラームス／ワルツ 作品39-15*

ブラームス／ワルツ集「愛の歌」作品52—第6曲「かわいらしい小鳥が」*

ブラームス(コンツ編)／ハンガリー舞曲集—第7番*

ブラームス／ハンガリー舞曲集—第2番、第5番

主催:パルテノン多摩共同事業体

お問合せ:パルテノン多摩 TEL (042) 376-8181

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

10/28(土) 3:30pm

出演者・曲目は10月29日と同じ

3/2(土) 3:30pm

出演者・曲目は3月1日と同じ

Bunkamura オーチャードホール

1/8(月祝) 3:30pm

指揮:準・メルクル ソプラノ:森野美咲*

デュカス／交響詩「魔法使いの弟子」

トマ／歌劇「ミニョン」よりボロネーズ「私はティタニア」*

J. シュトラウスII／常動曲 作品257

J. シュトラウスII／ワルツ「春の声」作品410*

ブラームス／交響曲 第1番 ヘ短調 作品68

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーゼ
名誉音楽監督：シャルル・デュトラ
桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュエット
桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケネージ
名誉指揮者：パーヴェン・ヤルヴィ
正指揮者：尾高忠明

特別コンサートマスター：篠崎史紀
コンサートマスター：伊藤亮太郎
ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

飯塚步夢
東條太河

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森沈一
宮坂拓志

村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ オーソリューションズ(株) 代表取締役 佐々木経世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 長村 中
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHK エデュケーションル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ AXLBIT(株) 代表取締役社長 長谷川章博	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 中島伸子	・ (学)NHK学園 理事長 等々力 健
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ (株)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役 傍田賢治
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK 出版 代表取締役社長 松本浩司
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)ウイングツアー 代表取締役 福田健二	・ (株)NHK テクノロジーズ 代表取締役社長 野口周一
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 森 俊哉	・ 内 聖美	

- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 浦林竜太
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 星野晃司
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長COO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(仮)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)ングマックス・ホールディングス
取締役会長兼取締役会議長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック青山
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則

- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田中進
- ・田原昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役会長兼社長 | 古谷太郎
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル 東日本(株)
代表取締役社長 | 石川 達
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)
取締役社長 | 堀江正博
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺藏人
- ・日興アセットマネジメント(株)
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役員社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野業穂子
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役員社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 社長執行役員
澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役員社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公財)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役社長 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也

- 三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- (株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- 三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- 三原穂積
- (株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- (学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
- (株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- (株)明電舎
執行役員社長 | 井上晃夫
- メットライフ生命保険(株)
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- (株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- (株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- 森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- 森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- 矢下茂雄
- 山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- (株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- (株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 西村 淳
- ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- 米澤文彦
- (株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- (株)読売旅行
代表取締役社長 | 真広貴志
- リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
木村和宏
- 料亭 三長
代表 | 高橋千善
- (株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- (有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田淵浩記
- YCC(株)
社長 | 中山武之
- 渡辺敦郎・優子

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

小林ひかり(こばやし ひかり)

北欧音楽研究家。大阪大学大学院文学研究科(音楽学)博士後期課程修了。訳書にアーリング・ダール著『グリーグ——その生涯と音楽』、論文に「近代日本におけるグリーグの音楽の受容」など。

小室敬幸(こむろ たかゆき)

音楽ライター。東京音楽大学付属高等学校および同大学で作曲を、同大学院で音楽学を専攻。クラシックやジャズ、映画音楽を中心に楽曲解説の寄稿やインタビュー取材、ラジオ出演など幅広く活動。共著書に『聴かずにいるのための吹奏楽入門』『コモンズ:スコラ vol. 18 ピアノへの旅』など。

高松佑介(たかまつ ゆうすけ)

千葉工業大学社会システム科学部教育センター助教、青山学院大学、慶應義塾大学非常勤講師。専門は19世紀のドイツ・オーストリアの音楽。フランツ・シューベルトの器楽曲における中間楽章に関する論文で博士号を取得。訳書にハンス＝ヨアヒム・ヘンリヒセン著『ブルックナー交響曲』。

(五十音順、敬称略)

Information

訃報

当団元チェロ奏者(1960年8月入団)で団友の藤井晃(ふじい あきら)氏が、2023年9月2日に逝去されました。享年92。ここに謹んで哀悼の意を表します。

日本を代表する作曲家のひとり、西村朗(にしむら あきら)氏が2023年9月7日に逝去されました。享年69。

西村氏は生前、西洋の現代作曲技法をベースに、アジアの伝統音楽、宗教、美学、宇宙観等に根差した作品を多数発表し、《2台のピアノと管弦楽のためのヘテロフォニー》《ヴァイオリン、ピアノのための二重協奏曲「光の環」》《永遠なる渾沌の光の中へ》《幻影とマントラ》《蘇莫者》《華開世界》と過去最多タイとなる6作品が、N響制定の作曲賞「尾高賞」を受賞しました。一方で2009年から3年間にわたってテレビ番組『N響アワー』で司会を務め、作曲家の視点からわかりやすくオーケストラ音楽の魅力を伝えました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Muraō
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda
- Ayumu Iizuka
- Taiga Tojo

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeda

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.1992

NHK Hall

October

14 (Sat) 6:00pm

15 (Sun) 2:00pm

conductor Herbert Blomstedt

concertmaster Sunao Goko

Anton Bruckner

Symphony No.5 B-flat Major [75']

- I Introduction: Adagio – Allegro
- II Adagio: Sehr langsam
- III Scherzo: Molto vivace (Schnell)
– Trio: Im gleichen Tempo
- IV Finale: Adagio – Allegro moderato

- This concert will be performed with no intermission.

- All performance durations are approximate.

A

14 & 15, OCT. 2023

Artist Profile

Herbert Blomstedt, conductor



Swedish conductor Herbert Blomstedt was born in the U.S. in 1927. After studying at various music institutions, including the Stockholm Royal College of Music, he made his debut in 1954 conducting the Stockholm Philharmonic Orchestra. He has served as Music Director or Principal Conductor of the Staatskapelle Dresden, San Francisco Symphony Orchestra, NDR Sinfonieorchester (now NDR Elbphilharmonie Orchester) and

the Gewandhaus Orchestra Leipzig while making guest appearances with the world's most renowned orchestras including the Berliner Philharmoniker and Wiener Philharmoniker.

He first worked with the NHK Symphony Orchestra in 1981, and was made Honorary Conductor of the orchestra in 1986. Since 2013, he has returned to the orchestra's podium every season except that of 2020–21 when a strict border control was in place due to the COVID-19 pandemic, and in 2016, he was presented the title of Honorary Conductor Laureate. Last year, he conducted programs including Mahler's Symphony No. 9 and won great acclaim. He always takes a sincere attitude when interpreting scores, but the music he delivers is highly

sophisticated, exhilarating and crystal clear without having any constraints.

This year marks the 50th anniversary since he first visited Japan as the conductor to lead the Japan tour of the Staatskapelle Dresden in 1973. The programs on this visit contain works of composers he has been most noted for, such as Bruckner, Brahms, and those of his native Scandinavia such as Finnish composer Sibelius and Danish composer Nielsen, and I am sure rich and brilliant music will be welling up from the long-standing and warm relations of mutual trust with the NHK Symphony Orchestra like an endless fountain.

[Herbert Blomstedt by Kotaro Yamazaki, music critic]

Program Note | Kumiko Nishi

Anton Bruckner (1824–1896)

Symphony No.5 B-flat Major

Music history is long on anecdotes about child prodigies. Bruckner, however, was a late bloomer. Born near Linz in Upper Austria, he made a living as a schoolteacher and church organist before moving to Vienna in 1868 in his mid-forties. It is only from that moment that most of his representative works including Symphonies No. 2 to No. 9 were penned. He had to long put up with cold treatment of his symphonies until the 1884 successful premiere of No. 7 spread his fame widely, twelve years before he passed away in Vienna at age 72.

Constant and inventive harmonic change, massive sound, frequent general (long) pauses evoking a cathedral's long reverberation, fine command of counterpoint (polyphony) – these qualities making Bruckner's symphonies extraordinary have to do with the fact that he was an unequaled organ virtuoso (namely an excellent improviser). As for No. 5, he wrote it from 1875 to 1878. As he never revised it after, the situation is much simpler than his other symphonies' with many different versions and editions mostly owing to his frequent large and small modifications. A main reason for that is that Bruckner never heard No. 5 performed by orchestra. He couldn't even assist its long-awaited 1894 premiere due to illness which would kill him two years later. For this concert, his pupil Franz Schalk radically changed the orchestration and made numerous cuts to conduct it. Only this unfaithful version was known to public for years, before the International Bruckner Society published the critical editions (based on Bruckner's manuscripts) by Robert Haas in 1935 and Leopold Nowak in 1951 (which have no significant differences). For today's performance, Herbert Blomstedt and the orchestra will use the Nowak edition.

Bruckner used in No. 5 a tuba for the first time (prior to the revised version of No. 4), which gives gravity to the sound despite the comparatively compact instrumentation. The global coherence of this monumental work is ensured by the careful design. The outer movements both in B-flat major share the same beginning (pizzicato by cellos and contrabasses in pianissimo). The inner movements both in D minor start with the common string melody with pizzicato triplets. The third movement in A–B–A form has a scherzo (A) in sonata form, of which the cheerful second theme like “Ländler” (Austrian rural dance) reappears in the last movement. This finale gives flashbacks of the previous movements (as with Beethoven's Ninth) at the slow introduction, followed by a startling amalgam of the sonata form and two fugues. As soon

as the exposition starts, the strings powerfully give the first fugue on the first sonata theme. Then, after the brass blows abruptly a new chorale-like element to end the exposition, comes the “double” fugue on this chorale-like element and the first fugue’s theme (that is, the first sonata theme). This grand fugal movement shows the true worth of Bruckner particularly as a supreme master of counterpoint.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B**Concert No.1994****Suntory Hall****October****25 (Wed) 7:00pm****26 (Thu) 7:00pm**

conductor**Herbert Blomstedt** | for a profile of Herbert Blomstedt, see p. 43**piano****Leif Ove Andsnes****concertmaster****Naoya Nishimura** ♦

◆ **Naoya Nishimura:** Naoya Nishimura was born in Nagoya. He started learning the violin at the age of four and graduated with honors from the Mannheim University of Music and Performing Arts. He has been invited to serve as a guest concertmaster by such orchestras as the Orchester de Paris and the Rotterdam Philharmonic Orchestra. After serving as 1st concertmaster of the Hamburger Symphoniker, he is presently the 1st concertmaster of the Philharmonische Staatsorchester Mainz.

Ludwig van Beethoven
Piano Concerto No. 5 E-flat Major
Op. 73, *Emperor* [38']

I Allegro

II Adagio un poco moto

III Rondo: Allegro, ma non troppo

— intermission (20 minutes) —

Johannes Brahms
Symphony No. 3 F Major Op. 90
[38']

I Allegro con brio

II Andante

III Poco allegretto

IV Allegro

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Leif Ove Andsnes, piano

Leif Ove Andsnes was born in the Norwegian city of Karmøy in 1970, and studied with Jiří Hlinka at the Bergen Music Conservatory. With his neat approach to music and simple and fresh sensibility, he has firmly built up his career since the 1990s without being swayed by the trend of the time. He is currently a resident of Bergen. As a pianist, he is also very active in chamber music concerts, while hosting a music festival in his native

country. He has been enthusiastic in giving world premiere performances to contemporary works, on the other hand, however, he takes a very cautious approach to selecting his own repertoire, and tries to narrow down programs each season.

In regards to concerto, he has focused on Rakhmaninov since the mid-2000s, and with the NHK Symphony Orchestra, he has performed Piano Concerto No. 2 under the baton of Noseda in 2008, and No. 3 under Blomstedt in 2011. In the 2010s, he focused on Beethoven complete concertos, and in the 2020s, he conducted the Mahler Chamber Orchestra to perform works of Mozart from the keyboard, and planned concert tours and recordings with it. In his first appearance with the NHK Symphony Orchestra, he chose Beethoven, and together performed Beethoven Piano Concerto No. 5 under Charles Dutoit in 1999. On his 5th visit to the orchestra this autumn, which is the first time since November 2016, he will be playing the same work under Herbert Blomstedt, the conductor he has a great trust on. We will surely enjoy hearing further growth and maturity in his performance.

[Leif Ove Andsnes by Takaakira Aosawa, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*

Among many historic concerts left on record, the one held on December 22nd, 1808 in Vienna is significant by far, for the audience witnessed the world premieres of Beethoven's Symphonies No. 5 (*Destiny*) and No. 6 (*Pastorale*) besides the first Viennese performance of his Piano Concerto No. 4 with him as soloist. He set to work on the next Piano Concerto No. 5 around the end of this December of great importance, to complete it by the summer of 1809.

No. 5 is Beethoven's only piano concerto for which he couldn't serve as soloist at the premiere, as his hearing was deteriorated seriously by then. Presumably because of that, he subsequently never wrote a new concerto for his instrument. This circumstance is related to the absence in No. 5 of traditional cadenza (where a soloist improvises freely without the orchestra, towards the end of the sonata movement). The cautious composer writes out all the cadential passages and reminds soloists on the score not to add any cadenza of their own.

No. 5 has an astounding, unheard-of beginning for a concerto: the soloist, backed up by the orchestra, gives a brilliant cadenza-like highlight before even the main sonata starts. The middle movement, a sublime variation, is followed seamlessly by the frisky last movement in rondo sonata form. Towards the closing, the serene duet between timpani and piano leads to the majestic conclusion worthy of the byname *Emperor*, although the appellation didn't originate with Beethoven.

Johannes Brahms (1833–1897)

Symphony No. 3 F Major Op. 90

Feeling the shadow of the awe-inspiring giant Beethoven, Brahms spent over twenty years to complete his first symphony. In contrast, No. 3 was written speedily in the summer of 1883 in the scenic summer-resort Wiesbaden, Germany. It is the shortest of his all four symphonies and, moreover, each of the four movements ends tranquilly. That is arguably the reason why

No. 3 is less frequently programmed for concert than the other three, in spite of its wide popularity (especially because of the third movement) and evaluation it has enjoyed. Incidentally, just before the resounding success of its 1883 premiere in Vienna, his admirer and friend Dvořák was deeply impressed by it and committed himself to writing a work on par with it. And hence, the Czech composer's Symphony No. 7 exists today.

No. 3 begins with three forceful, broad chords stating a motto (brief motif) which will occur repeatedly throughout the symphony. The motto composed of three notes (F/A-flat/F) is thought to refer to “**F**rei **a**ber **f**roh” (free but happy). This is Brahms' life motto responding to “Frei aber einsam” (free but lonely), his friend and violinist Joseph Joachim's. However, Brahms' three notes don't sound “happy” in the context of F major, the symphony's home key, due to the middle flat note belonging to F minor. It is this tonal ambiguity that brings the work a touch of melancholy.

The relatively transparent scoring instructs during the inner movements for the timpani, trumpets, contrabassoon and two of the horns to be tacit. Furthermore, Brahms breaks the convention by offering the slow third movement (in A-B-A form) with the famous longing melody. This unusual lack of a lively scherzo movement is made up only modestly and momentarily by the dance-like – but still slow – middle section B. The F-minor finale in free sonata form begins softly introducing the wriggling first theme. Then the mood turns bellicose, all at once. The music calms towards the end so the F-major coda recalls the opening movement quietly.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 45

PROGRAM

C

Concert No.1993

NHK Hall

October

20 (Fri) 7:30pm

21 (Sat) 2:00pm

conductor

Herbert Blomstedt | for a profile of Herbert Blomstedt, see p. 43

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 20th from 6:45pm / Saturday 21st from 1:15pm

Shirabe Aoki(vn.), Kenji Matano(vn.), Gentaro Sakaguchi(vla.), Shunsuke Yamanouchi(vc.)

Nielsen / String Quartet No. 4 Op. 44—1st Mov.

* You may enter and leave as you please during the performance.

* Enjoy chamber music from your own seat.

Carl Nielsen

Aladdin, suite Op. 34—Oriental Festive March, Hindu Dance, The Market Place in Ispahan, Negro Dance [13']

Jean Sibelius

Symphony No. 2 D Major Op. 43 [43']

- I Allegretto
- II Tempo andante, ma rubato
- III Vivacissimo – Trio: Lento e suave
- IV Finale: Allegro moderato

- This concert will be performed with no intermission.

- All performance durations are approximate.

Program Notes | Kumiko Nishi

Carl Nielsen (1865–1931)

Aladdin, suite Op. 34—Oriental Festive March, Hindu Dance, The Market Place in Ispahan, Negro Dance

The most prominent Danish composer of all time, Nielsen studied composition in Copenhagen under Niels Gade who also trained the Norwegian composer Edvard Grieg. While composing, Nielsen started his career as an orchestral violinist and later served as a conductor with the Royal Theatre in Copenhagen (as the second Kapelmester, 1908–1914) and the Orchestra of the Copenhagen Music Society.

Although best-known for his six important symphonies, Nielsen left us numerous incidental music works of which the most large-scale and highly-valued is the one for a production of the play *Aladdin, or the Wonderful Lamp*. Based on *the Arabian Nights*, this five-act “Dramatic Fairy Tale” was written by the Danish playwright Adam Oehlenschläger. For the 1919 new production premiered in the Royal Theatre, Nielsen’s previous workplace, he composed thirty-one pieces. After and even before the premiere, he enjoyed conducting excerpts of the original score in concerts. Reflecting his favorite selections, the suite Op. 34 was published nine years after his passing.

The most striking – and modern – of the suite is *The Market Place in Ispahan*, the music from the scene Aladdin secretly sees his future wife Gulnare, the sultan’s daughter, and falls in love with her. To recreate the bazaar’s hustle and bustle, Nielsen divided the orchestra into four groups which, after entering one by one, play different pieces in different tempos. Exotic sound worlds, *Hindu Dance* and *Negro Dance* add zest and colors to the wedding of Aladdin and Gulnare.

Jean Sibelius (1865–1957)

Symphony No. 2 D Major Op. 43

The same age as Nielsen, Sibelius gained recognition outside his home Finland at the turn of the century. Of this period, his patriotic tone poem *Finlandia* (1899/1900) and Symphony No. 1 (1899/1900) were published straightaway. Sibelius also occupied himself in 1900 by touring Europe (including the Finnish pavilion at the World’s Fair in Paris) with the Helsinki Philharmonic to present his latest works. Then came his Symphony No. 2: it was mostly penned in 1901 and premiered in March 1902 in Helsinki before the composer revised it the following year.

The most frequently-played among all the symphonies of Sibelius, No. 2 is marked by its brightness due to the home key of D major and the Beethovenian triumphant conclusion. This attainment of “light” after passing through “darkness” is often interpreted as the victory of Finland against oppression (the country was then under the yoke of the Russian Empire), though the composer stated it was a non-programmatic symphony. Sibelius’ stay in warm Italy (February to April 1901) during the composition of No. 2 is worthy of attention when it comes to its overall radiant nature, however, the death of his youngest daughter in early 1900 must have casted a shadow over this chapter of his life.

No. 2 is in four movements of which the last two are performed continuously. “Dualism” is probably a key to grasp the middle movements both in A–B–A–B–coda form. As for the slow second movement in D minor, studies have found that Sibelius associated the mournful theme A (given by bassoons over the cello pizzicato) with the Don Juan legend (more precisely his death brought by the Stone Guest), and the reposeful theme B with “Christus.” The third movement alternates a vehement scherzo section A and a bucolic trio B. The hesitantly-climbing-up motif heard on strings at the beginning of the first movement turns to the resolutely-ascending main theme of the final movement: based on this buoyant theme, a hymn-like melody is sung by the brass to close the symphony exultantly.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 45

The Subscription Concerts Program 2023–24

2023 10	A	Concert No. 1992	October 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm	Bruckner Symphony No. 5 B-flat Major	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
		NHK Hall	Herbert Blomstedt, conductor		
		Concert No. 1994	October 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm	Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
		Suntory Hall	Herbert Blomstedt, conductor Leif Ove Andsnes, piano		
		Concert No. 1993	October 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm	Nielsen <i>Aladdin</i> , suite Op. 34— <i>Oriental Festive March, Hindu Dance, The Market Place in Ispahan, Negro Dance</i> Sibelius Symphony No. 2 D Major Op. 43	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,800 E 800
		NHK Hall	Herbert Blomstedt, conductor		
2023 11	A	Concert No. 1997	November 25 (Sat) 6:00pm 26 (Sun) 2:00pm	Sviridov <i>Small Triptych</i> Prokofiev <i>War and Peace</i> , opera Op. 91— <i>Waltz in scene 2</i> Anton Rubinstein Ballet Music from <i>The Demon</i> , opera — <i>Dance of Girls*</i> Glinka <i>Ivan Sussanin</i> , opera— <i>Krakowiak</i> Rimsky-Korsakov <i>Snow Maiden</i> , suite Tchaikovsky / Fedoseyev <i>The Sleeping Beauty</i> , ballet suite	Ordinary Youth S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		NHK Hall	Vladimir Fedoseyev, conductor *Changed from original program.		
		Concert No. 1996	November 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm	Sibelius <i>Tapiola</i> , symphonic poem Op. 112 Stravinsky Violin Concerto in D Sibelius Symphony No. 1 E Minor Op. 39	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
		Suntory Hall	Jukka-Pekka Saraste, conductor Pekka Kuusisto, violin		
		Concert No. 1995	November 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm	Bartók <i>Hungarian Pictures</i> Liszt <i>Hungarian Fantasy*</i> Kodály <i>Háry János</i> , suite	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,800 E 800
		NHK Hall	Gergely Madaras, conductor Tomoki Sakata, piano*		
2023 12	A	Concert No. 2000		The 2000th Subscription Concerts	
		December 16 (Sat) 6:00pm 17 (Sun) 2:00pm	Mahler Symphony No. 8 E-flat Major, <i>Symphonie der Tausend (Symphony of Thousand)</i> Fabio Luisi, conductor Jacquelyn Wagner*, Valentina Farcas, Rie Miyake, sopranos Olesya Petrova, Catriona Morison, altos Michael Schade, tenor Luke Sutliff, baritone David Steffens, bass New National Theatre Chorus, chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus *Changed from initially scheduled.	Ordinary Youth S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,200 D 5,000 D 2,500 E 3,300 E 1,600	
		NHK Hall			
		Concert No. 1999	December 6 (Wed) 7:00pm 7 (Thu) 7:00pm	Haydn Symphony No. 100 G Major Hob. I-100, <i>Military</i> Liszt Piano Concerto No. 1 E-flat Major Reger Variations and Fugue on a Theme by Mozart Op. 132	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
		Suntory Hall	Fabio Luisi, conductor Alice-Sara Ott, piano		
		Concert No. 1998	December 1 (Fri) 7:30pm 2 (Sat) 2:00pm	Humperdinck <i>Hänsel und Gretel</i> , opera— <i>Prelude (Hänsel and Gretel)</i> Berlioz <i>Symphonie fantastique</i> , Op. 14 (<i>Fantastical Symphony</i>)	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,800 E 800
		NHK Hall	Fabio Luisi, conductor		

(consumption tax included)

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024
01

A Concert No. **2001**
January
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Bizet / Shchedrin *Carmen Suite*, ballet
Ravel *Ma mère l'Oye*, suite (*Mother Goose*)
Ravel *La valse*, ballet

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. **2003**
January
24 (Wed) 7:00pm
25 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364
Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, *Eroica* (*Heroic Symphony*)

Tugan Sokhiev, conductor
Sunao Goko (Guest concertmaster, NHKSO), violin*
Junichiro Murakami (Principal Viola, NHKSO), viola
*Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2002**
January
19 (Fri) 7:30pm
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Liadov *Kikimora*, légende Op. 63
Prokofiev / Sokhiev *Romeo and Juliet*, ballet suite

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024
02

A Concert No. **2004**
February
3 (Sat) 6:00pm
4 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Johann Strauss II *Im Krapfenwald'l*,
polka française Op. 336 (*In Krapfen's Woods*)
Shostakovich Suite for Variety Orchestra No. 1
—*March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II*
Shostakovich Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, *Babi Yar**

Michiyoshi Inoue, conductor
Evgeny Stavinisky, bass* Orphei Drängar, male chorus*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

B Concert No. **2006**
February
14 (Wed) 7:00pm
15 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Ravel *Rapsodie espagnole* (*Spanish Rhapsody*)
Prokofiev Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63
Falla *El sombrero de tres picos*, ballet (complete) (*The Three-Cornered Hat*)*

Pablo Heras-Casado, conductor
Augustin Hadelich, violin
Tamayo Yoshida, soprano*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2005**
February
9 (Fri) 7:30pm
10 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Siegfried Idyll*
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Eiji Oue, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024
04

A Concert No. **2007**
April
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Schubert Symphony No. 4 C Minor D. 417
Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Marek Janowski, conductor

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. **2009**
April
24 (Wed) 7:00pm
25 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Schumann *Genoveva*, opera Op. 81—Overture
Schumann Cello Concerto A Minor Op. 129
Schumann Symphony No. 2 C Major Op. 61

Christoph Eschenbach, conductor
Kian Soltani, cello

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **2008**
April
19 (Fri) 7:30pm
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Bruckner Symphony No. 7 E Major

Christoph Eschenbach, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

(consumption tax included)

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
 - Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

**2024
05**

A	Concert No. 2010	Panfili <i>Abitare la battaglia</i> [Japan Premiere]	Ordinary	Youth
	May	Respighi <i>Fontane di Roma</i> , symphonic poem (<i>Fountains of Rome</i>)	S 9,800	S 4,500
	11 (Sat) 6:00pm	Respighi <i>Pini di Roma</i> , symphonic poem (<i>Pines of Rome</i>)	A 8,400	A 4,000
	12 (Sun) 2:00pm	Respighi <i>Feste Romane</i> , symphonic poem (<i>Roman Festivals</i>)	B 6,700	B 3,300
			C 5,400	C 2,500
			D 4,400	D 1,800
			E 2,800	E 1,400
	NHK Hall	Fabio Luisi, conductor		

B	Concert No. 2012	Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15	Ordinary	Youth
	May	Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, <i>The 4 Temperaments</i>	S 9,800	S 4,500
	22 (Wed) 7:00pm		A 8,400	A 4,000
	23 (Thu) 7:00pm		B 6,700	B 3,300
			C 5,400	C 2,500
			D 4,400	D 1,800
	Suntory Hall	Fabio Luisi, conductor Rudolf Buchbinder, piano		

C	Concert No. 2011	Mendelssohn <i>A Midsummer Night's Dream</i>	Ordinary	Youth
	May	—Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March	S 7,600	S 3,500
	17 (Fri) 7:30pm	Mendelssohn Symphony No. 5 D Minor Op. 107, <i>Reformation</i>	A 6,700	A 3,000
	18 (Sat) 2:00pm		B 5,300	B 2,400
			C 4,300	C 1,900
			D 3,300	D 1,400
			E 1,600	E 800
	NHK Hall	Fabio Luisi, conductor		

**2024
06**

A	Concert No. 2013	Scriabin <i>Rêverie</i> , Op. 24	Ordinary	Youth
	June	Scriabin Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20	S 9,100	S 4,000
	8 (Sat) 6:00pm	Scriabin Symphony No. 2 C Minor Op. 29	A 7,600	A 3,500
	9 (Sun) 2:00pm		B 5,900	B 2,800
			C 4,800	C 2,100
			D 3,800	D 1,500
			E 2,000	E 1,000
	NHK Hall	Keitaro Harada, conductor Kyohei Sorita, piano		

B	Concert No. 2015	Webern Passacaglia Op. 1	Ordinary	Youth
	June	Schönberg Violin Concerto Op. 36	S 9,800	S 4,500
	19 (Wed) 7:00pm	J. S. Bach / Webern Ricercata	A 8,400	A 4,000
	20 (Thu) 7:00pm	Schubert Symphony No. 5 B-flat Major D. 485	B 6,700	B 3,300
			C 5,400	C 2,500
			D 4,400	D 1,800
	Suntory Hall	Masato Suzuki, conductor Isabelle Faust, violin		

C	Concert No. 2014	Ibert <i>Escales</i> (<i>Ports of Call</i>)	Ordinary	Youth
	June	Ravel Piano Concerto for the Left Hand	S 7,600	S 3,500
	14 (Fri) 7:30pm	Debussy <i>Nocturnes</i> *	A 6,700	A 3,000
	15 (Sat) 2:00pm		B 5,300	B 2,400
			C 4,300	C 1,900
			D 3,300	D 1,400
			E 1,600	E 800
	NHK Hall	Nodoka Okisawa, conductor Denis Kozhukhin, piano The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*		

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

いつでもどこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ

※2 地域の情報の一部は番組2週間配信

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧ください

※ 放送権借約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

アプリで便利に！



スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる！

聴き逃し

放送終了後1週間/
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK財団

- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

役員等・団友

役員等

理事長	今村啓一
常務理事	中野谷公一 三溝敬志
理事	相川直樹 内永ゆか子 岡田知之 笠原裕之 杉山博孝 錢谷真美 團 宏明 毛利 衛
監事	浜村和則 江口貴之
評議員	稲葉延雄 江頭敏明 樺山紘一 熊埜御堂 朋子 清野 智 田中宏暎 檀 ふみ 坪井節子 前田昭雄 松居 匡 三浦 惺 山名啓雄 渡辺 修

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹	
岩渕一真 高木かおり 宮崎則匡 田内誠人 野村 歩 姫野 恵 尾澤 勉	山田大祐 沖 あかね 黒川大亮 猪股正幸 浅田武志 杉山真知子	石井 康 内山弥生 上原 静 吉賀重希 山本能寛 山田麻子 目黒重治	北見佳織 徳永匡哉 木村英代 三浦七菜子 西川彰一	利光敬司 高橋 啓

団友

田中 裕	チェロ	オーボエ	トランペット	瀬戸川 正	事務局
鶴我裕子				百瀬和紀	
徳永二男	岩井雅音	青山聖樹	井川明彦		稲川 洋
中瀬裕道	木越 洋	北島 章	北村源三	ピアノ	入江哲之
永峰高志	齋藤鶴吉	浜 道晃	来馬 賢		金沢 孝
根津昭義	三戸正秀	茂木大輔	関山幸弘	本荘玲子	小林文行
堀 正文	銅銀久弥		津堅直弘		清水永一郎
堀江 悟	丹羽経彦	クラリネット	栃本浩規	理事長	関 照枝
前澤 均	平野秀清		福井 功		中馬 究
ヴァイオリン	藤井 晃	磯部周平	佛坂咲千生	曾我 健	出口修平
板橋 健	武藤伸二	加藤明久		田畑和宏	西村集介
梅澤美保子	村上和邦	横川晴児	トロンボーン	野島直樹	芳賀由明
海野義雄	山口裕之			日向英実	松崎ユリ
大澤 浄	蓬田清重	コントラバス	伊藤 清	木田幸紀	望戸一男
大林修子		ファゴット	神谷 敏	森 茂雄	諸岡 淳
大松八路	ヴィオラ	井戸田善之	栗田雅勝	今井 環	吉田博志
金田幸男		志賀信雄	関根五郎	根本佳則	渡辺 克
川上朋子	大久保淑人	田中雅彦	霧生吉秀		渡辺克己
川上久雄	小野富士	中 博昭	ホルン	役員	
窪田茂夫	梯 孝則	佐川裕昭		テューバ	加納民夫
黒柳紀明	河野昌彦	新納益夫	大野良雄		唐木田信也
公門俊之	菅沼準二		田村 宏	多戸幾久三	齊藤 滋
齋藤真知理	店村真積	フルート	中島大之	原田元吉	関川精二
酒井敏彦	田渕雅子		樋口哲生		鳴嶋郁夫
清水謙二	中竹英昭	菅原 潤	松崎 裕	打楽器	原 武
鈴木弘一	三原征洋	細川順三	山田桂三		山崎大樹
武内智子	村山 弘	宮本明恭	山本 真	有賀誠門	
田渕 彰	渡部啓三			岡田知之	

フィルハーモニー2023年10月号 | 第95巻 第7号

2023年10月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49

TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278

発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (財)NHK財団

取材・編集: 株アルテスパブリッシング

表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず



九谷 菊文小皿／「目の眼」11月号特集より

いいものに出会ふと

自分の命を拾った思ひがある

川端康成

11月号 | 10/14 発売

骨董の多い料理店

目利きの京料理人5選

富小路やま岸・ごだん宮ざわ・飯田・月おか・にしぶち飯店



最新号 WEB 無料公開中
menomeonline.com

The 20th
Anniversary

NHK 音楽祭

MUSIC FESTIVAL

～名曲と出会う場所～

2023

MEET the CLASSICS

巨匠フェドセーエフが
悠揚迫らざるテンポで描く、
チャイコフスキーの名曲を
5年ぶりに全曲演奏！



© Oleg Nachinkin

11月20日(月)
19:00開演

共催：NHK交響楽団
協賛：岩谷産業

NHK交響楽団

指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ

児童合唱：東京少年少女合唱隊

チャイコフスキー/
バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71 全曲



写真提供：NHK交響楽団



© Laura Stevens



9年ぶりの来日！新音楽監督 天才シャニとともに
伝統の音色が響き、こころを揺さぶる

11月23日(木・祝)
16:00開演

イスラエル・ フィルハーモニー 管弦楽団

指揮：ラハフ・シャニ

バイオリン：庄司紗矢香

ツヴィ・アブニ／祈り

ベートーベン／
バイオリン協奏曲 二長調 作品61

ベートーベン／
交響曲第7番 一長調 作品92



好評発売中

NHKホール

入場料(消費税込)

※予定枚数終了 残席わずか ※売り切れの席はご容赦ください

公演	公演日	開演	観覧 予定	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-25席
NHK交響楽団	11/20(月)	19:00	21:00	10,000	8,500	7,000	5,500	4,500	3,000	1,500
イスラエルフィルハーモニー管弦楽団	11/23(木・祝)	16:00	18:00	21,000	18,000	12,000	8,000	6,000	4,500	2,000

割引チケットのご案内 同時にご申込いただいた場合、料金が5%割引になります。取り扱いは、NHKプロモーションの「インターネット受付」/「電話予約」のみです。詳しくは、NHKプロモーションまでお問い合わせください。



●お問い合わせ
ハローダイヤル 050-5541-8600 / 9:00～20:00(無休)
NHKホームページ <http://nhk.jp/event>

NHKプロモーション
音楽祭係 TEL. 03-3468-7736 / 平日11:00～17:00
<https://www.nhk-p.co.jp/>

主催：NHK、NHKプロモーション

協賛：Canon キヤノンマーケティングジャパン

MIZUHO みずほ銀行

N響第九

Special Concert

2023年12月27日(水) 7:00pm

サントリーホール

Wednesday, December 27, 2023 Suntory Hall

バッハ／18のライプチヒ・コラール ―「装いせよ、おお、愛する魂よ」BWV654

Bach 18 Chorales, *Leipziger Chorale* — *Schmücke dich, o liebe Seele*, BWV654

オルガン: 勝山 雅世

Masayo Katsuyama, organ

バーバー／弦楽のためのアダージョ

Barber Adagio for Strings

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調

作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, *Choral*

合唱: 新国立劇場合唱団

New National Theatre Chorus, chorus

一般: S ¥17,500 A ¥14,500 B ¥11,500 C ¥8,000

ユースチケット(25歳以下):

S ¥8,750 A ¥7,250 B ¥5,750 C ¥4,000

※全て税込価格

発売開始: 10月9日(月・祝) 10:00am

N響定期会員先行発売日: 10月3日(火) 10:00am

[定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502 (営業日・
営業時間はN響ホームページでご確認ください)

前売所

- WEBチケットN響..... <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド..... 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター..... 0570-55-0017
suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ..... pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス)..... eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット..... l-tike.com/nhkso

・ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。・定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。・早い着席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。・未就学児のご入場はお断りしています。・公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

指揮: 下野 竜也

Tatsuya Shimono, conductor



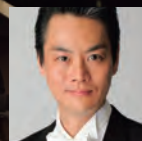
ソプラノ: 中村 恵理
Eri Nakamura,
soprano



メゾソプラノ 脇岡 彩
Aya Wakizono,
mezzo soprano



テノール: 村上 公太
Kota Murakami,
tenor



バス: 河野 鉄平
Teppei Kono,
bass

進化するめくもり。

BEETHOVEN

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

バーバー／弦楽のためのアダージョ
Barber Adagio for Strings

ベートーヴェン／
交響曲 第9番
二短調 作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No.9 D minor op.125, Choral

2023年
12/22 金 7:00 pm | 12/23 土 2:00 pm
12/24 日 2:00 pm | 12/26 火 7:00 pm*

NHKホール

*12月26日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです

チケット発売開始:
10月9日(月・祝)10:00am

N響定期会員先行発売日(26日公演をのぞく):

10月3日(火)10:00am

[定期会員は一般料金から10%割引、26日公演をのぞく]

料金(税込):

一般 S¥15,000 A¥12,000 B¥9,000 C¥6,500 D¥4,500

ユースチケット(25歳以下) S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,250 D¥2,250

お問い合わせ
N響ガイド:0570-02-9502
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

NHK厚生文化事業団:03-3476-5955
(26日公演のみ、平日10:00am~6:00pm)

主催: NHK/NHK交響楽団
主催(26日): NHK/NHK厚生文化事業団

協賛: みずほ証券株式会社
はごろもフーズ株式会社
株式会社明電舎



指揮
下野 竜也



ソプラノ
中村 恵理



メゾ・ソプラノ
脇園 彩



テノール
村上 公太



バス
河野 鉄平

合唱: 新国立劇場合唱団

前売所:

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>
N響ガイド 0570-02-9502

チケットぴあ pia.jp/t/nhkso/
e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso/
ローンチケット l-tike.com/nhkso

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド(26日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●未就学児のご入場はお断りしています。●公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

SYMPHONY No.9

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ)

Iwatani

岩谷産業株式会社